

不



立卯科括純と般通哥

正述心緒

ありのまきまき
 糸糸を
 つまひかき
 きんき

「あつちのうらまを
 うらまうーきんき」

三冊
 大物

寄物陳思

よせうは
 賢論此科
 小撮む

「まのうらまを
 たのまきんき」

南馬道
 松新

雑

あまき
 四季の歌
 此科小入る

「まの川を
 あがとりのまき」

中ノ下
 竹住

雑体

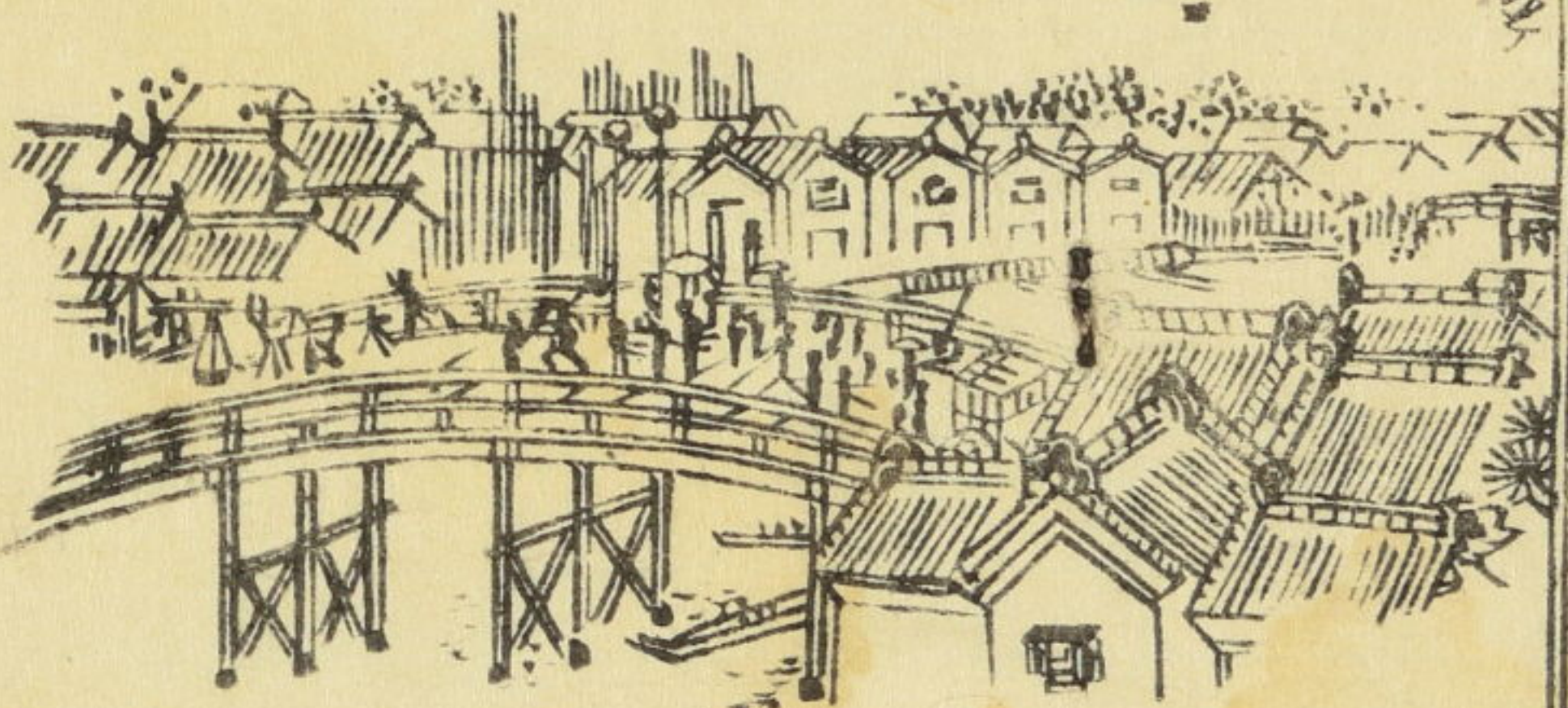
あまのあま
 浄福
 長秋
 字あまりのあ

「あまのあま
 長秋
 字あまりのあ」

洗神
 元巻

東都名所八首

日本橋



橋

あやんで

お陰の

うき

あま

青柳 辰

言

うき名

うき

あま

青柳 栄

あま

あま

あま

あま

青柳 龍



浅草寺

せふりふせいの

あま

あま

あま

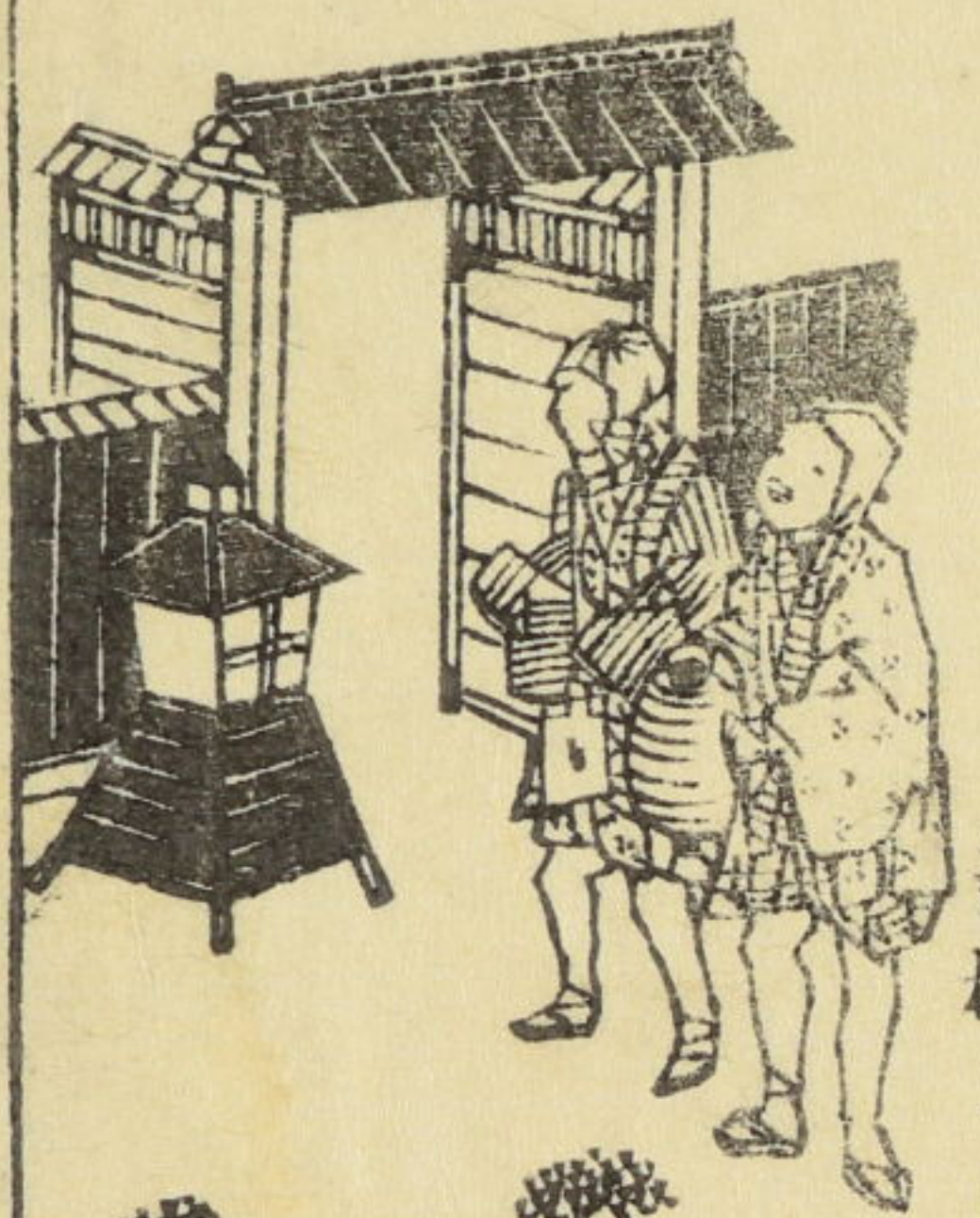
青柳 庄

亀戸

あま

新吉原

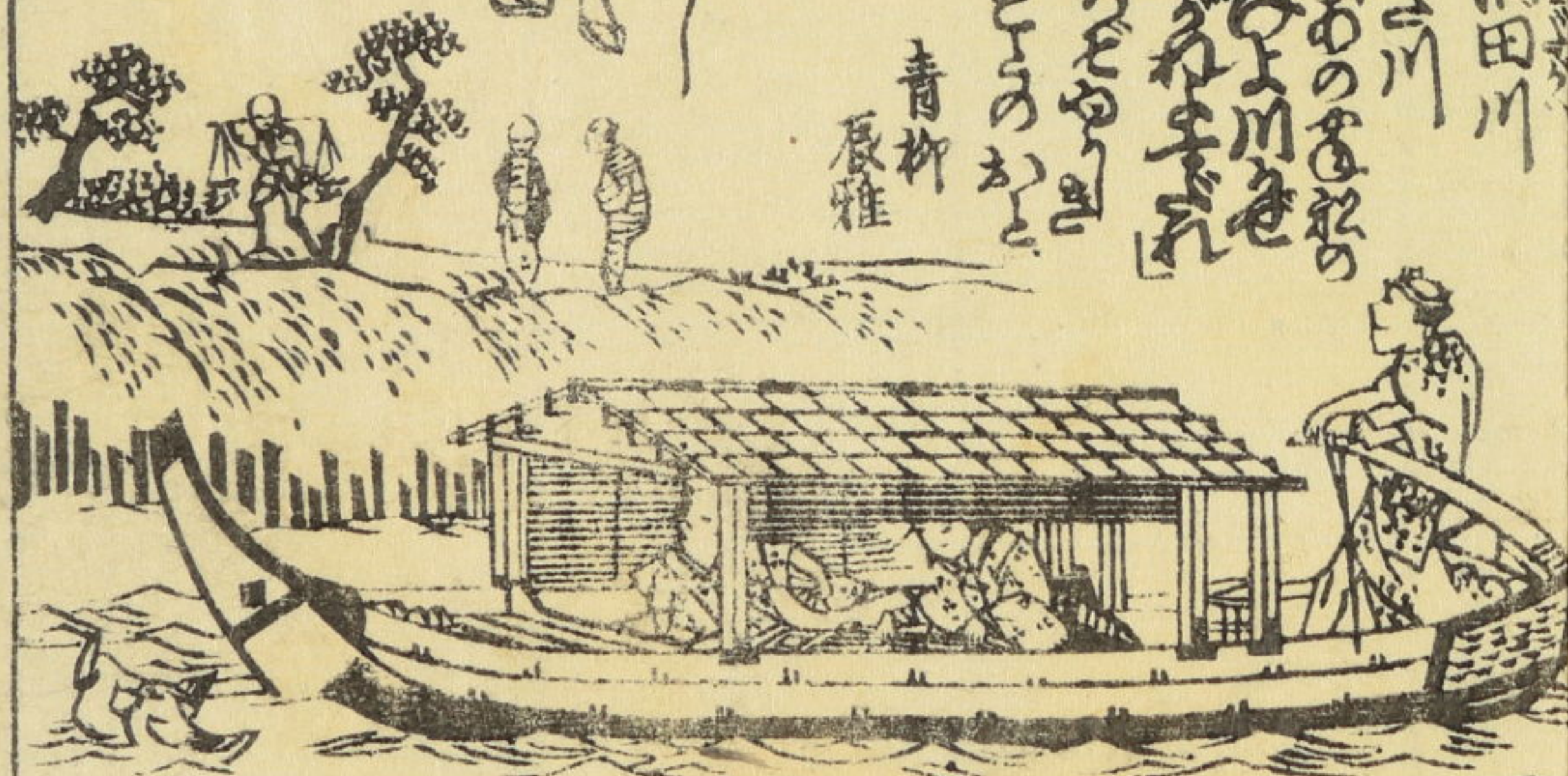
あま



隅田川

あま

青柳 辰雅



上野

あま

あま

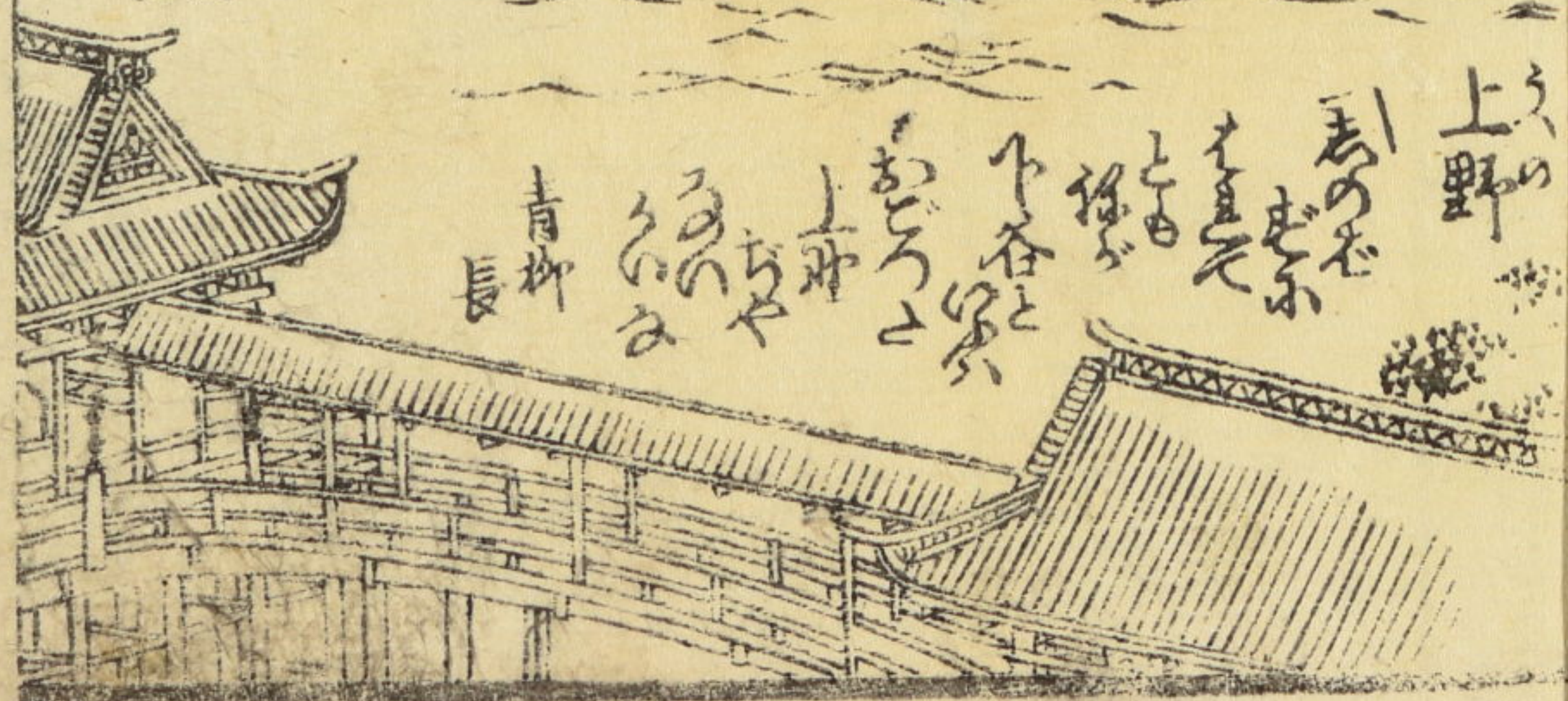
あま

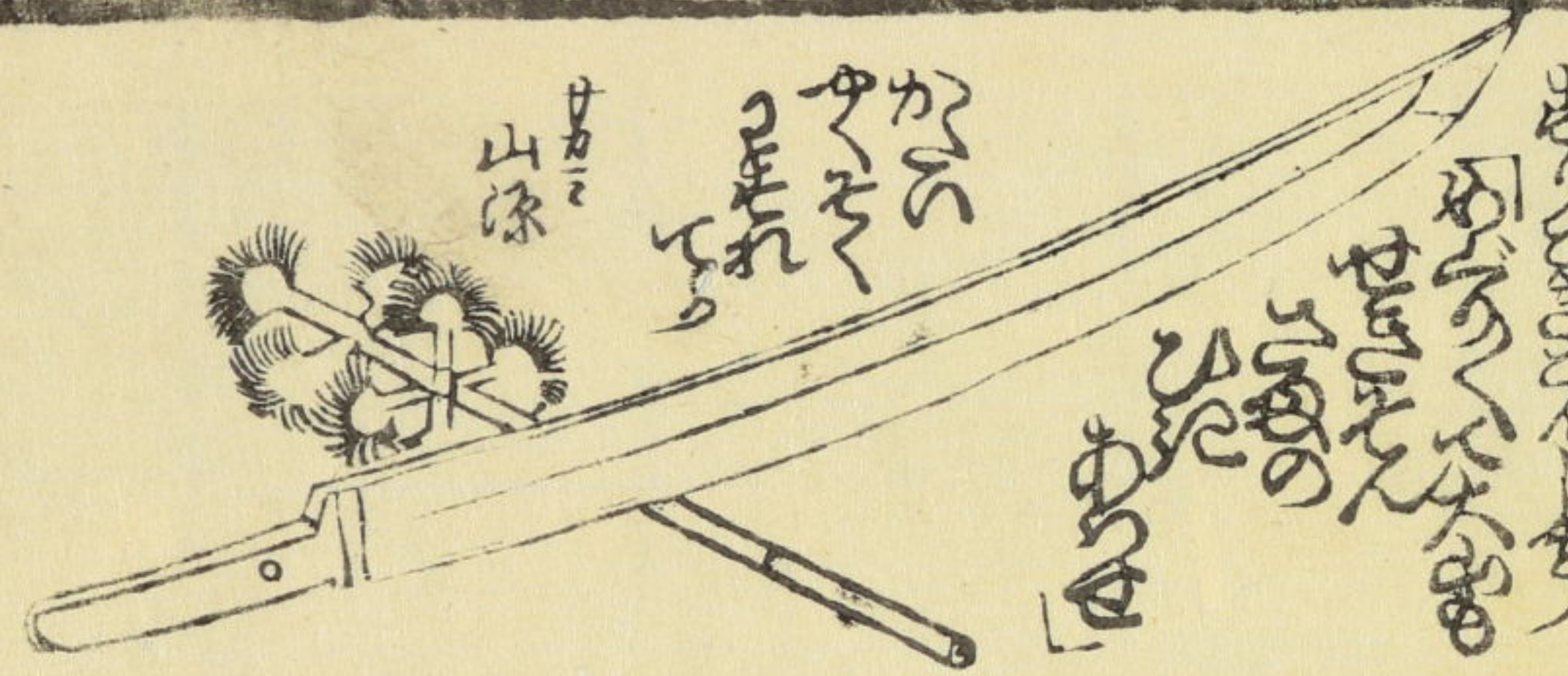
あま

あま

あま

青柳 長





山浜
かみの
やうそく
こまね
て

はつしん
ひた
ひた
ひた
ひた



信三町
赤岩

あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん



あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん



あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん

あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん



あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん



あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん
あつしん

五色餅の壽々々 (Ichi-go-ichibu no Shuu-shuu-shuu)

あつら
 七草
 中川現十郎
 中川現十郎



あつら
 七草
 中川現十郎
 中川現十郎



あつら
 七草
 中川現十郎
 中川現十郎



あつら
 七草
 中川現十郎
 中川現十郎



あつら
 七草
 中川現十郎
 中川現十郎



あつら
 七草
 中川現十郎
 中川現十郎



あつら
 七草
 中川現十郎
 中川現十郎



あつら
 七草
 中川現十郎
 中川現十郎



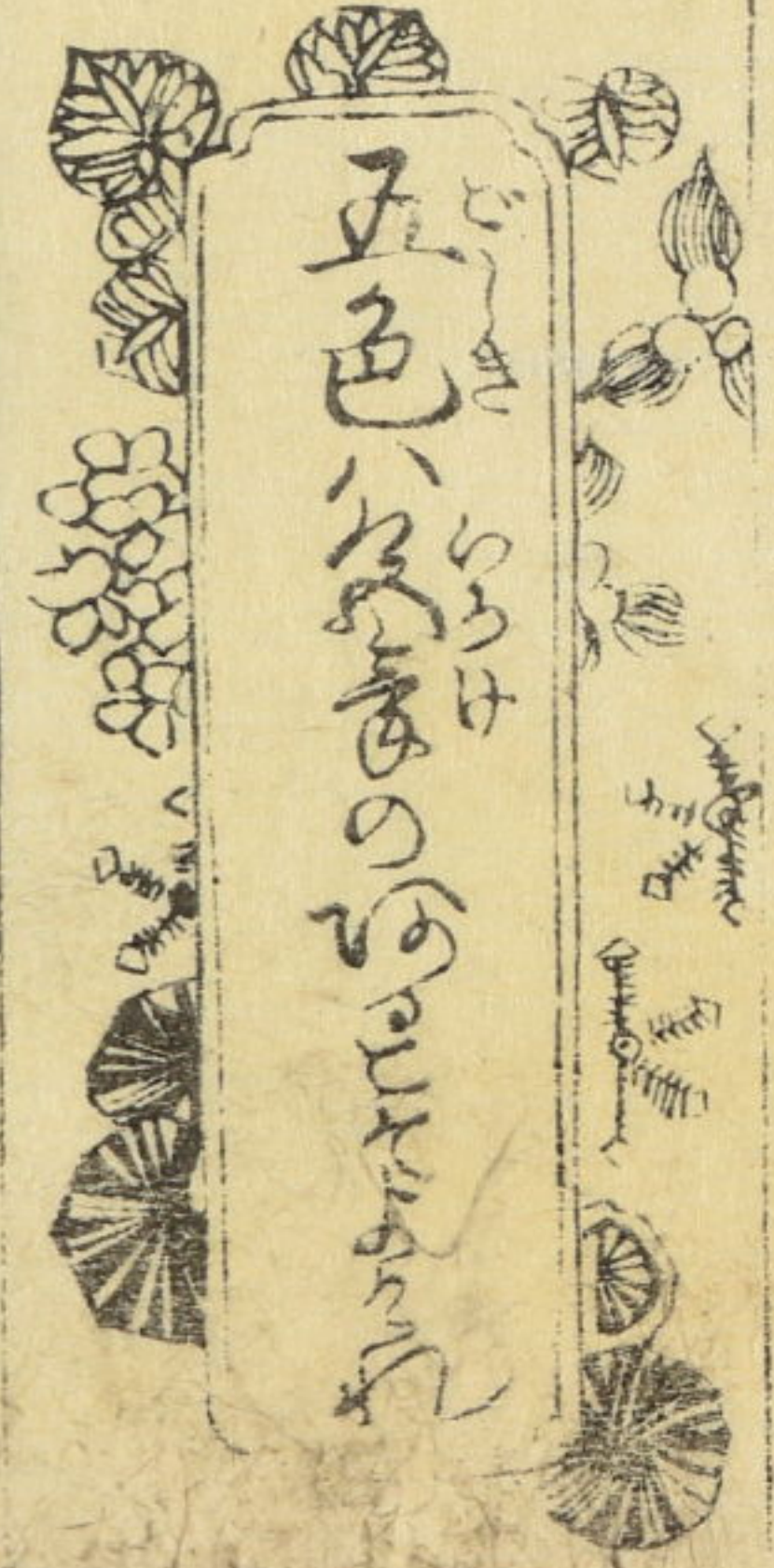
あつら
 七草
 中川現十郎
 中川現十郎



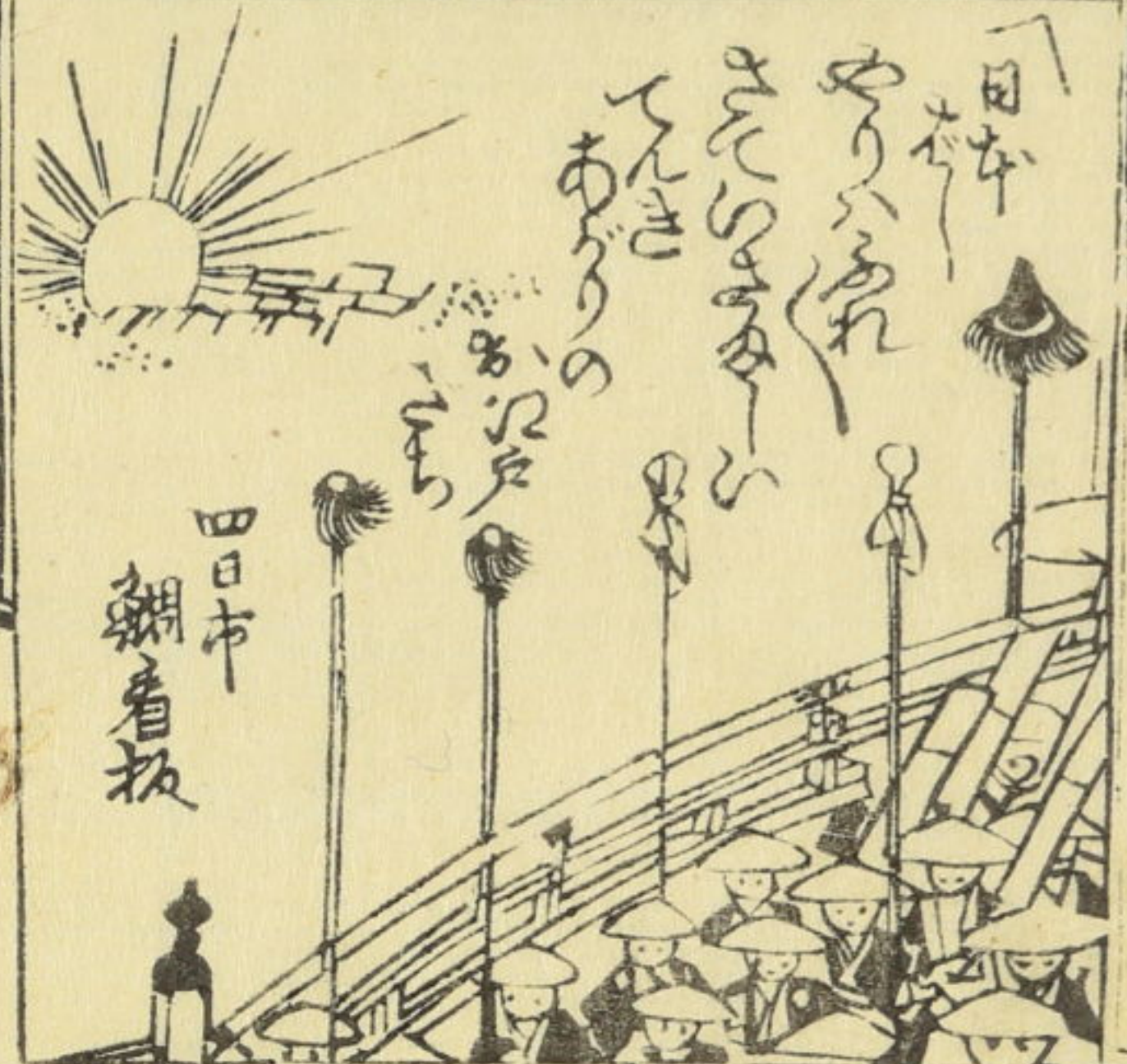
あつら
 七草
 中川現十郎
 中川現十郎



あつら
 七草
 中川現十郎
 中川現十郎



東海道五十三驛

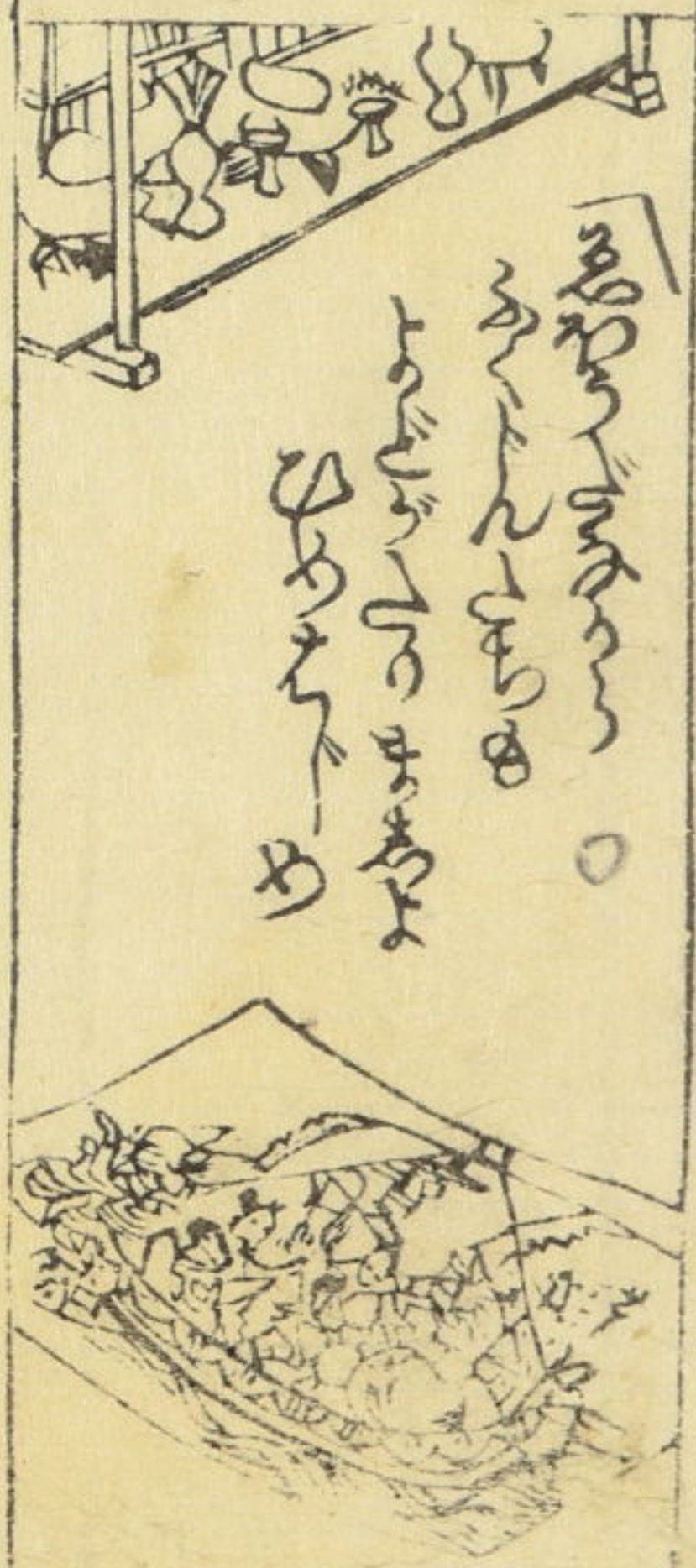


四日市 潮着板

新橋 初音な



正月 二月 三月 四月 五月 六月



あけぼののまはら けしき けしき けしき



鶴江唐市



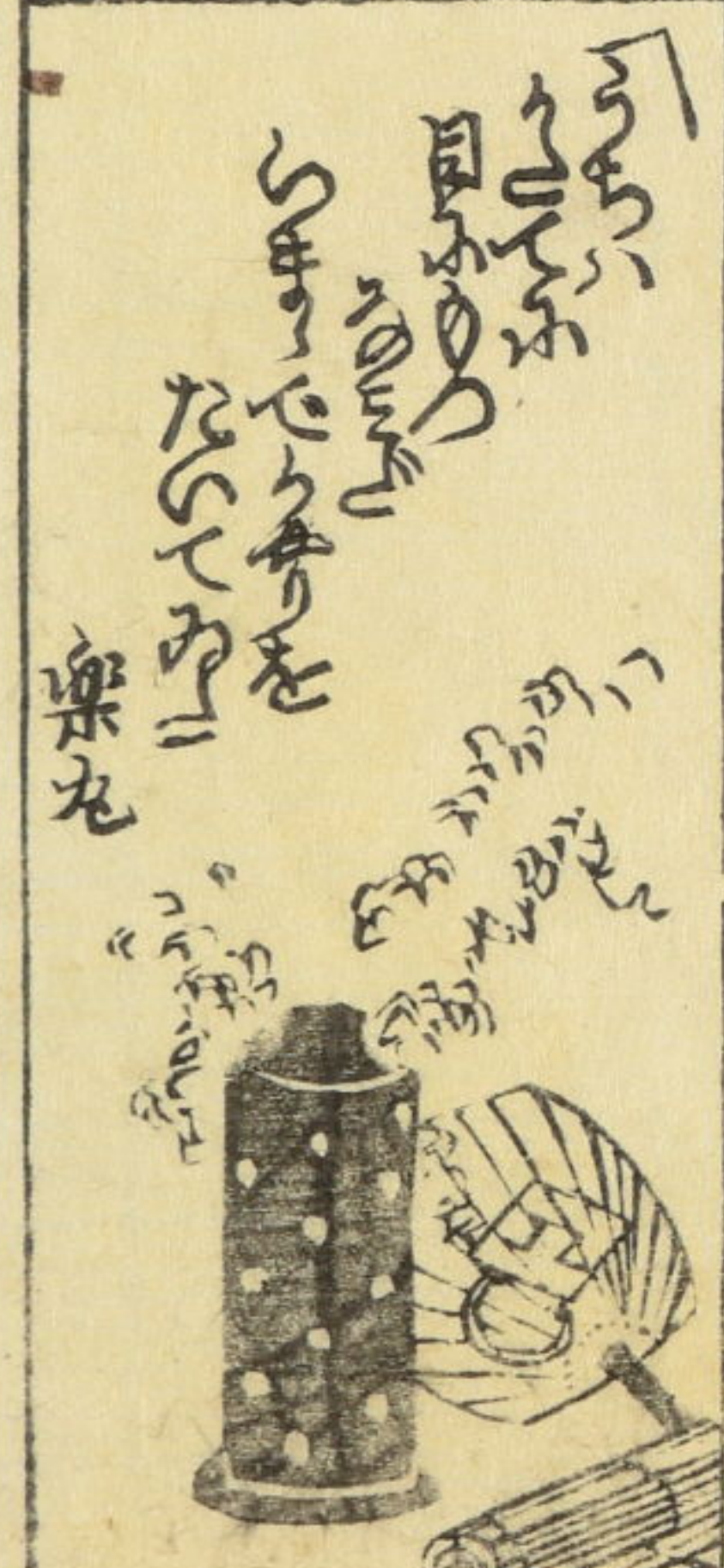
あけぼののまはら けしき けしき けしき



あけぼののまはら けしき けしき けしき

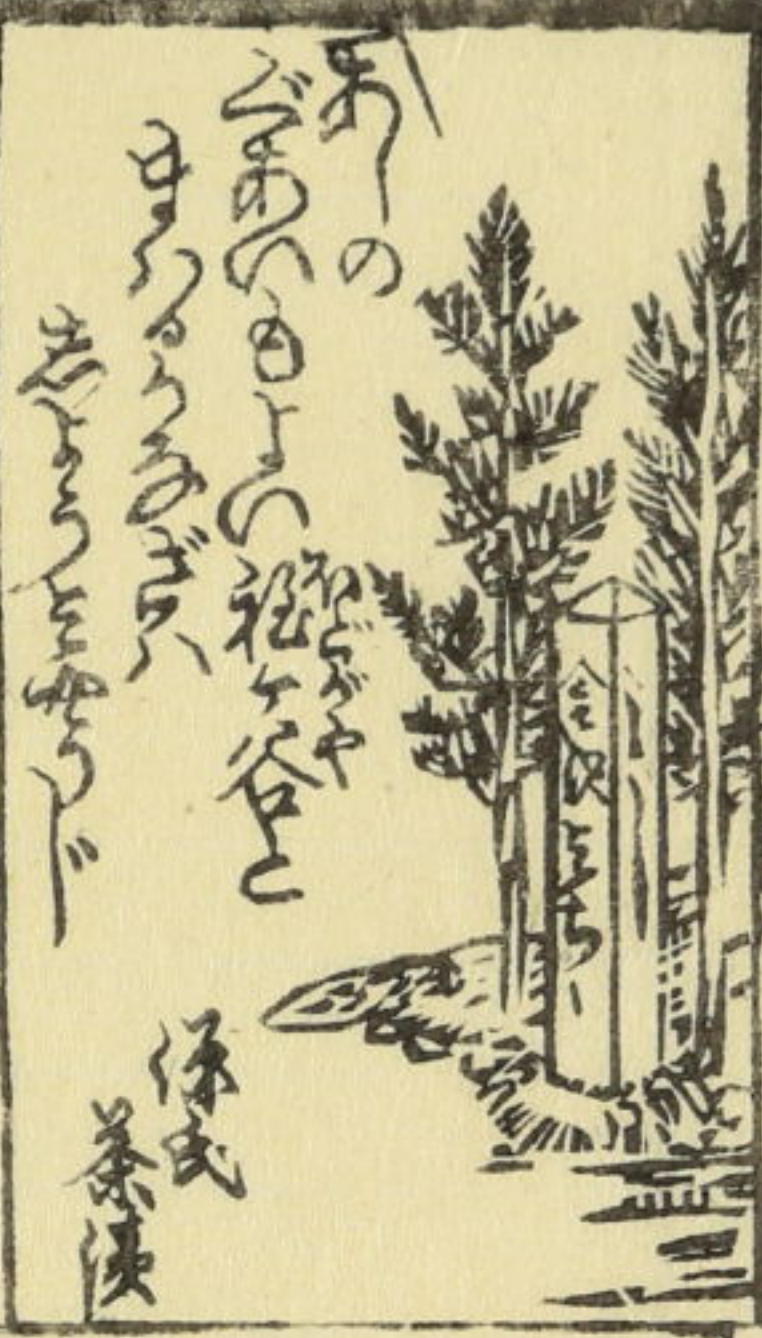


あけぼののまはら けしき けしき けしき



あけぼののまはら けしき けしき けしき

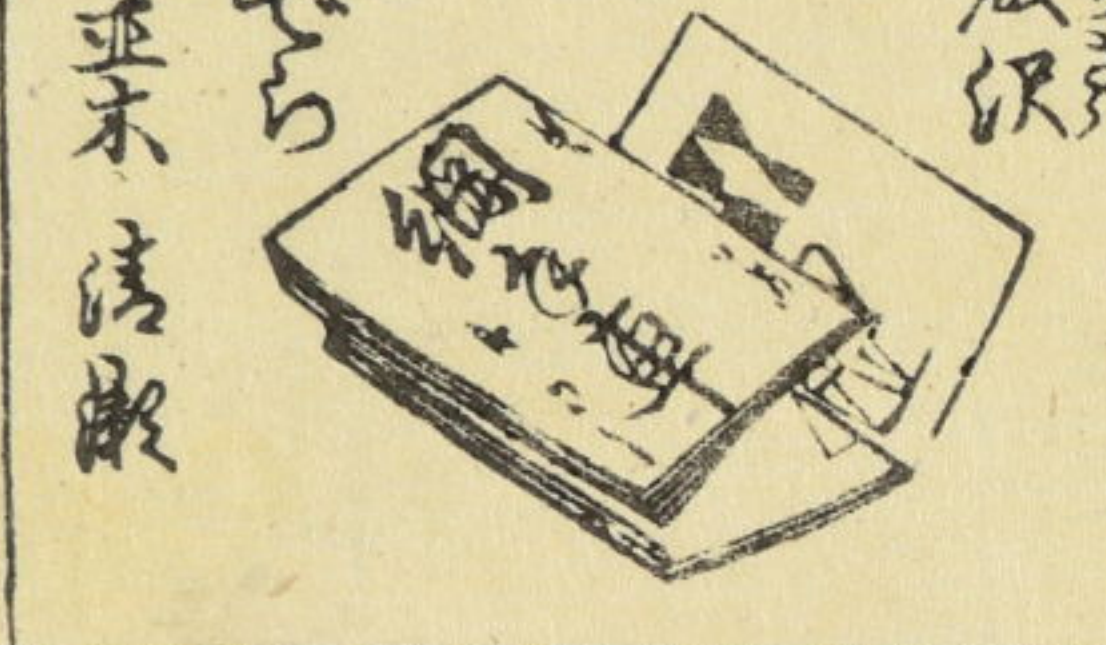
九月七日
 九日
 一月



九月九日
 九月十日
 九月十一日
 九月十二日



九月十三日
 九月十四日
 九月十五日
 九月十六日



月七

九月十七日
 九月十八日
 九月十九日

月八

九月二十日
 九月二十一日
 九月二十二日

月九

九月二十三日
 九月二十四日
 九月二十五日

月十

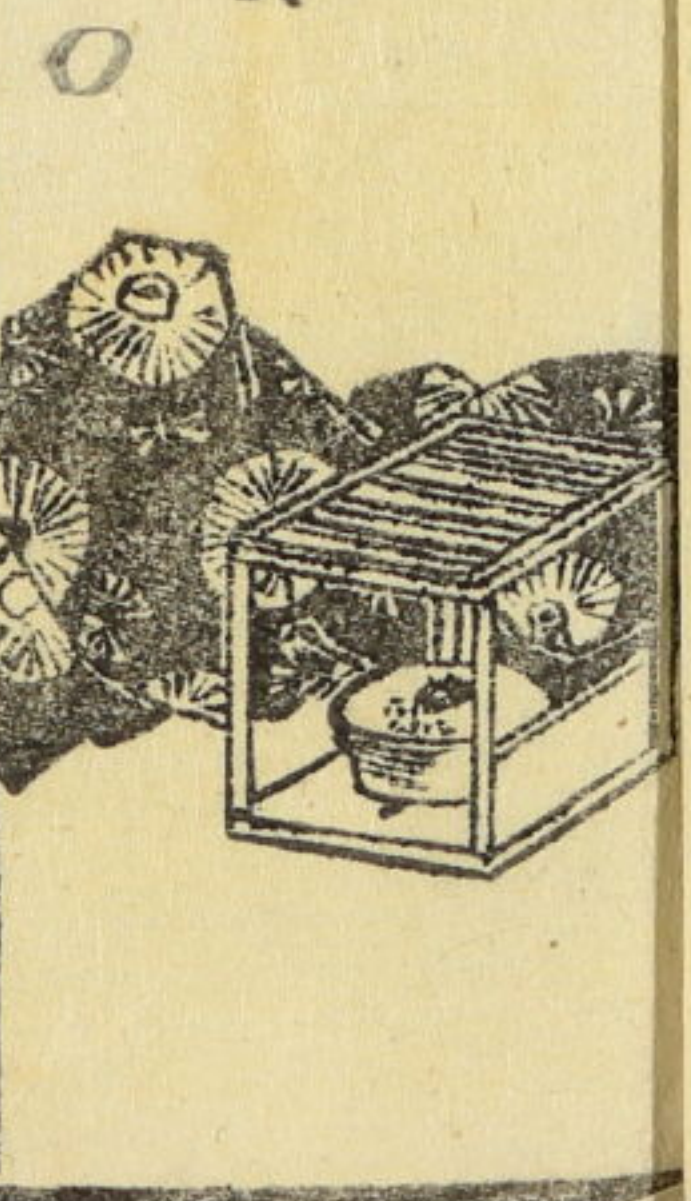
九月二十六日
 九月二十七日
 九月二十八日

月十一

九月二十九日
 九月三十日

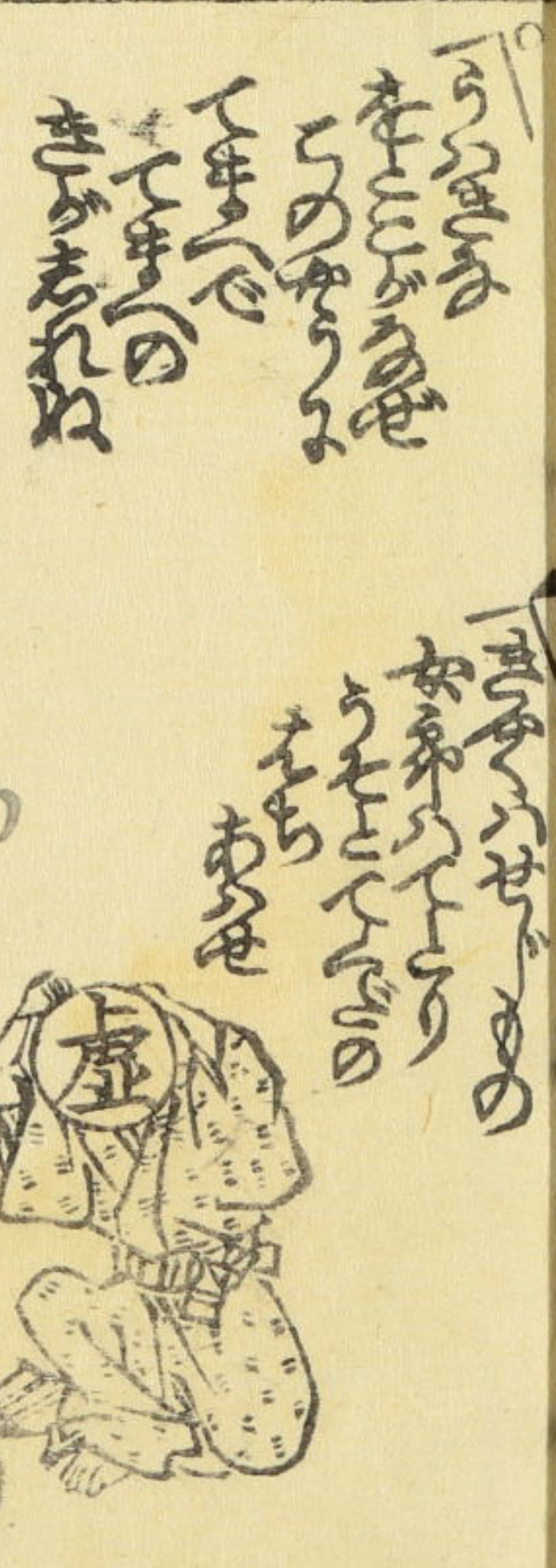
月十二

十月一日
 十月二日



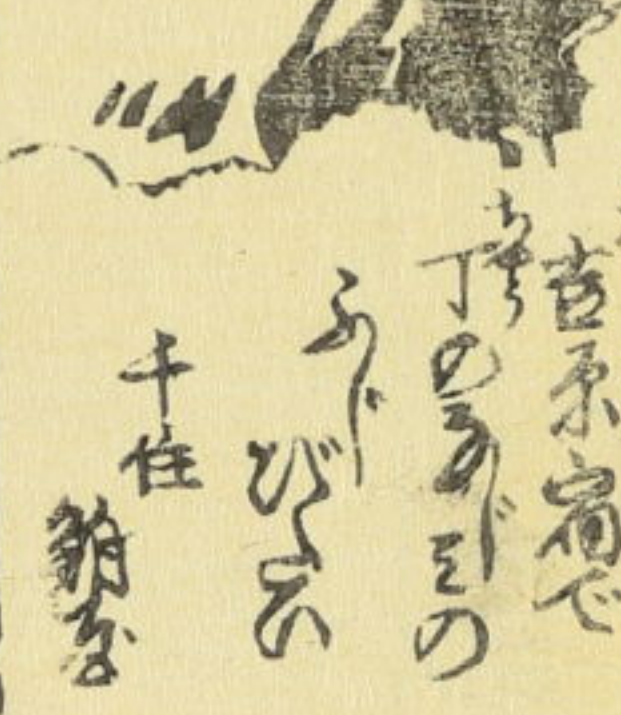


あつのま
正述心緒 寄物陳思
あつのまをりちんしん画かうしん
あつのまをりちんしん画かうしん
あつのまをりちんしん画かうしん

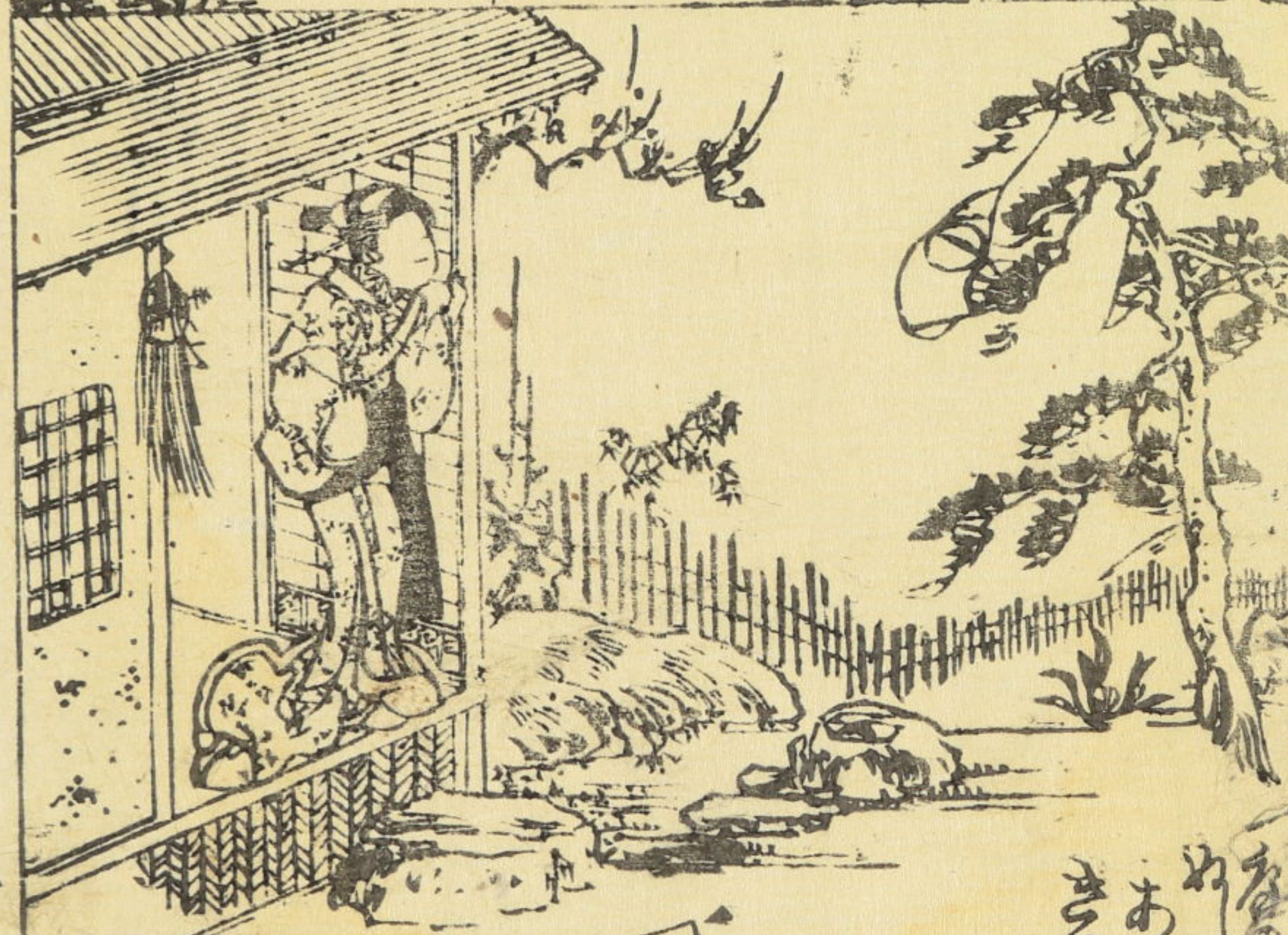


千代のあれいさろさろ
 文筆のむかし
 まるねえ
 うふ
 まま
 まなまのりくま
 大代宗のりくま
 可きまをむかひ
 ちんぎ
 のまじ
 ろひてき

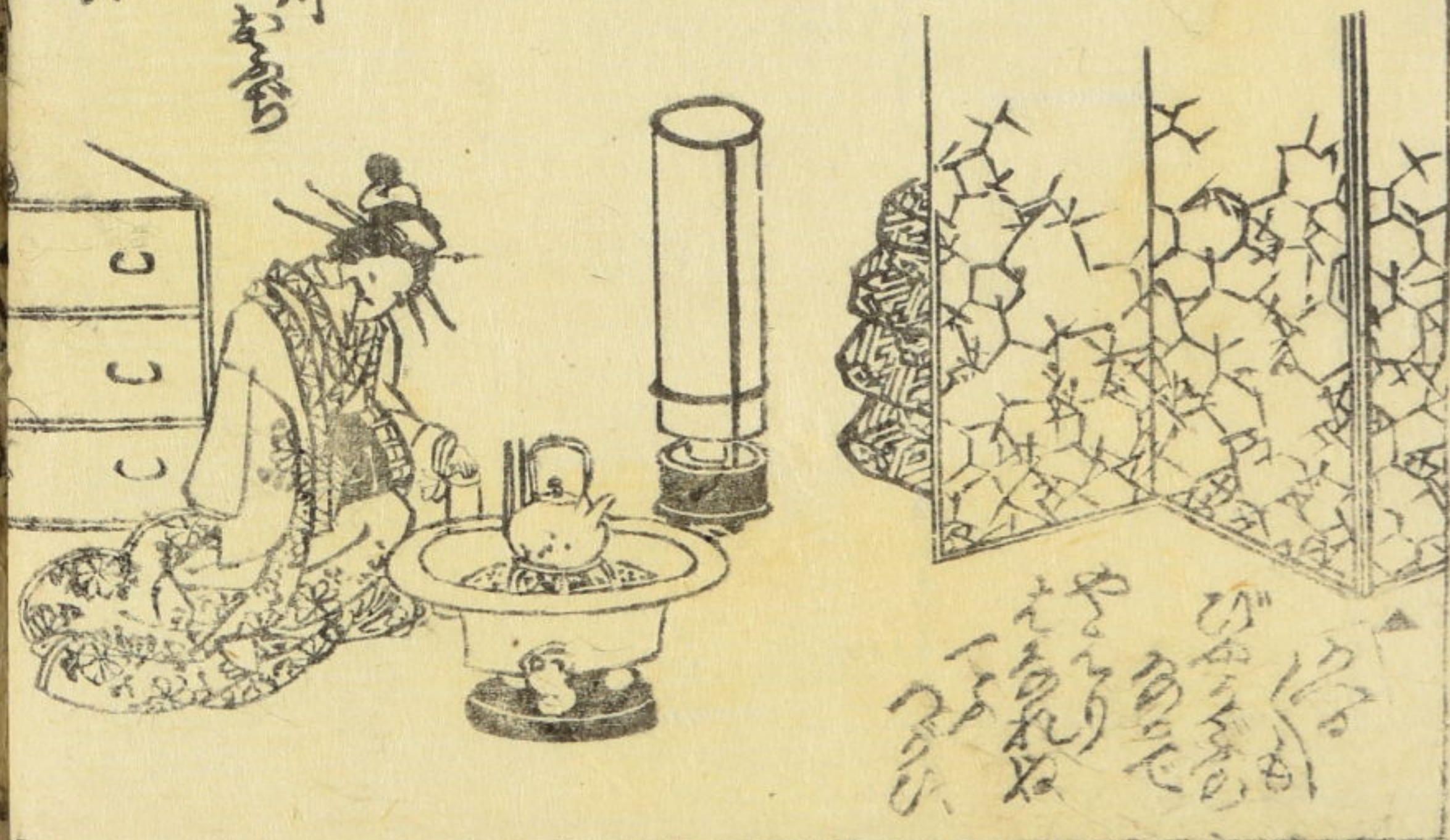
牛島登山
 系



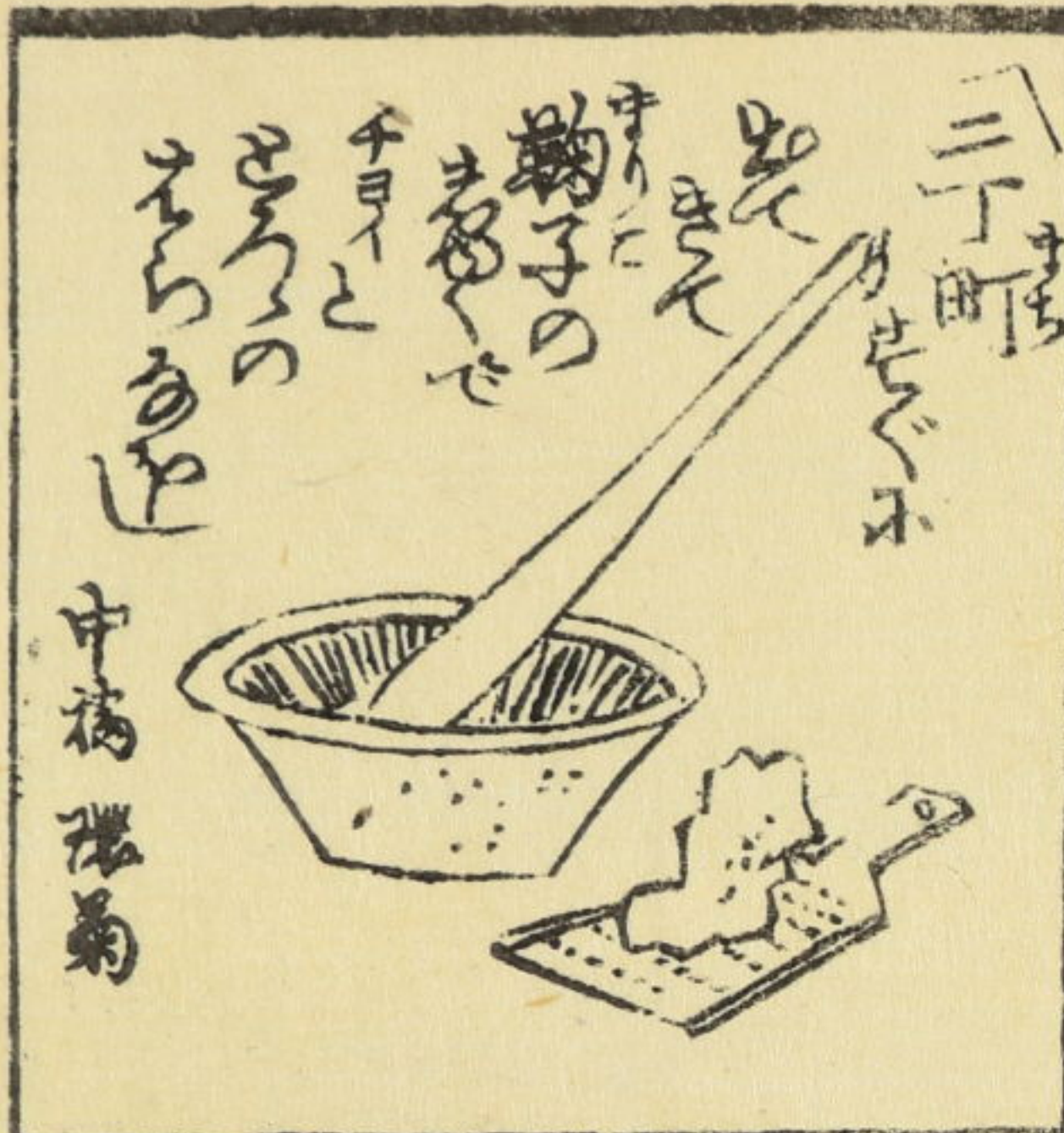
千代...
 文筆...
 まる...
 うふ...
 まま...
 まな...
 大代...
 可き...
 ちん...
 のま...
 ろひ...
 牛島...
 系



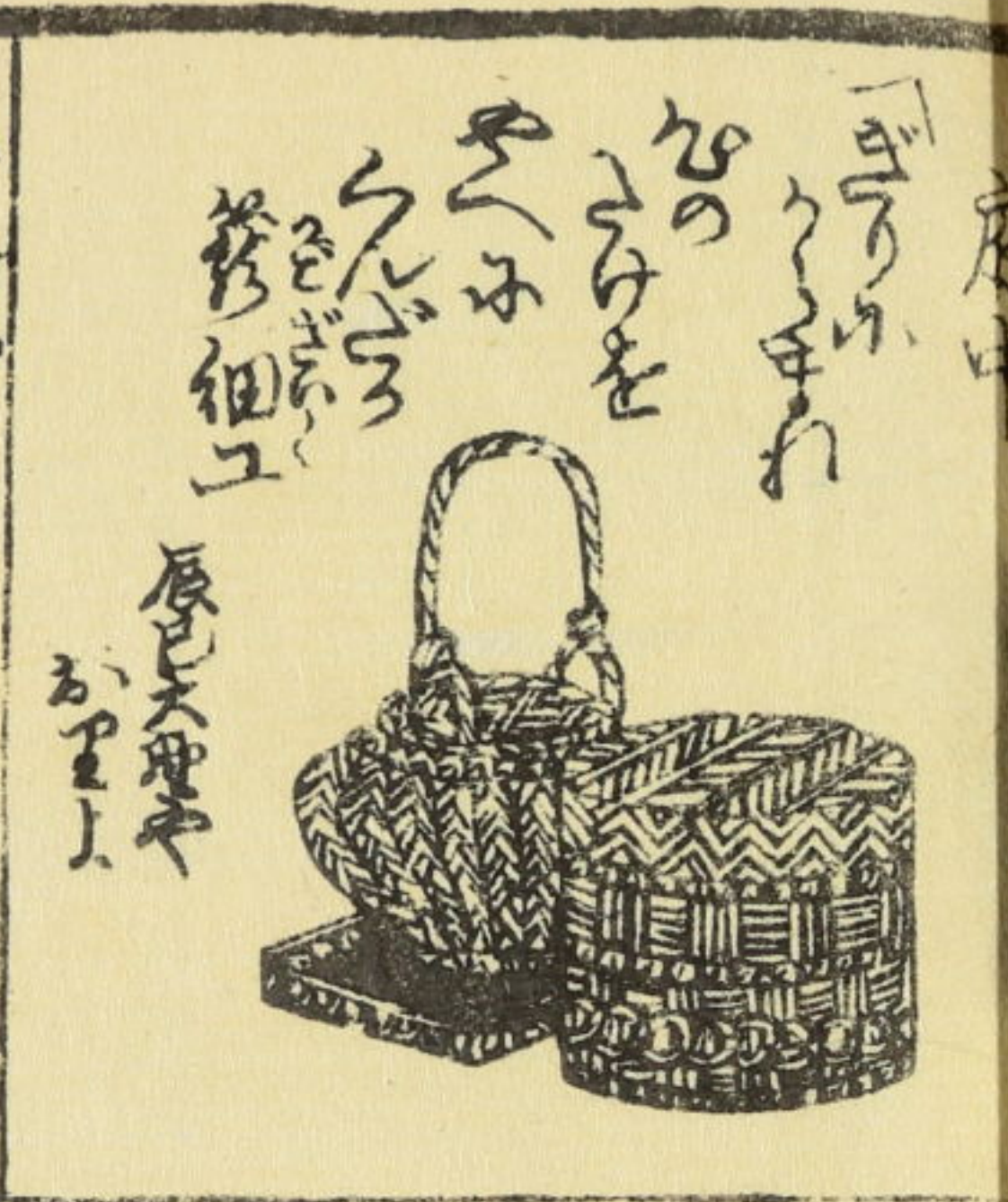
千代のあれいさろさろ
 文筆のむかし
 まるねえ
 うふ
 まま
 まなまのりくま
 大代宗のりくま
 可きまをむかひ
 ちんぎ
 のまじ
 ろひてき



九



三丁町
中橋米菊
わんまき
まきん
鞠子の
まきん
まきんと
まきんと
まきんと



原田
原田
原田
原田
原田
原田
原田
原田
原田
原田
原田
原田



坂田
坂田
坂田
坂田
坂田
坂田
坂田
坂田
坂田
坂田
坂田
坂田

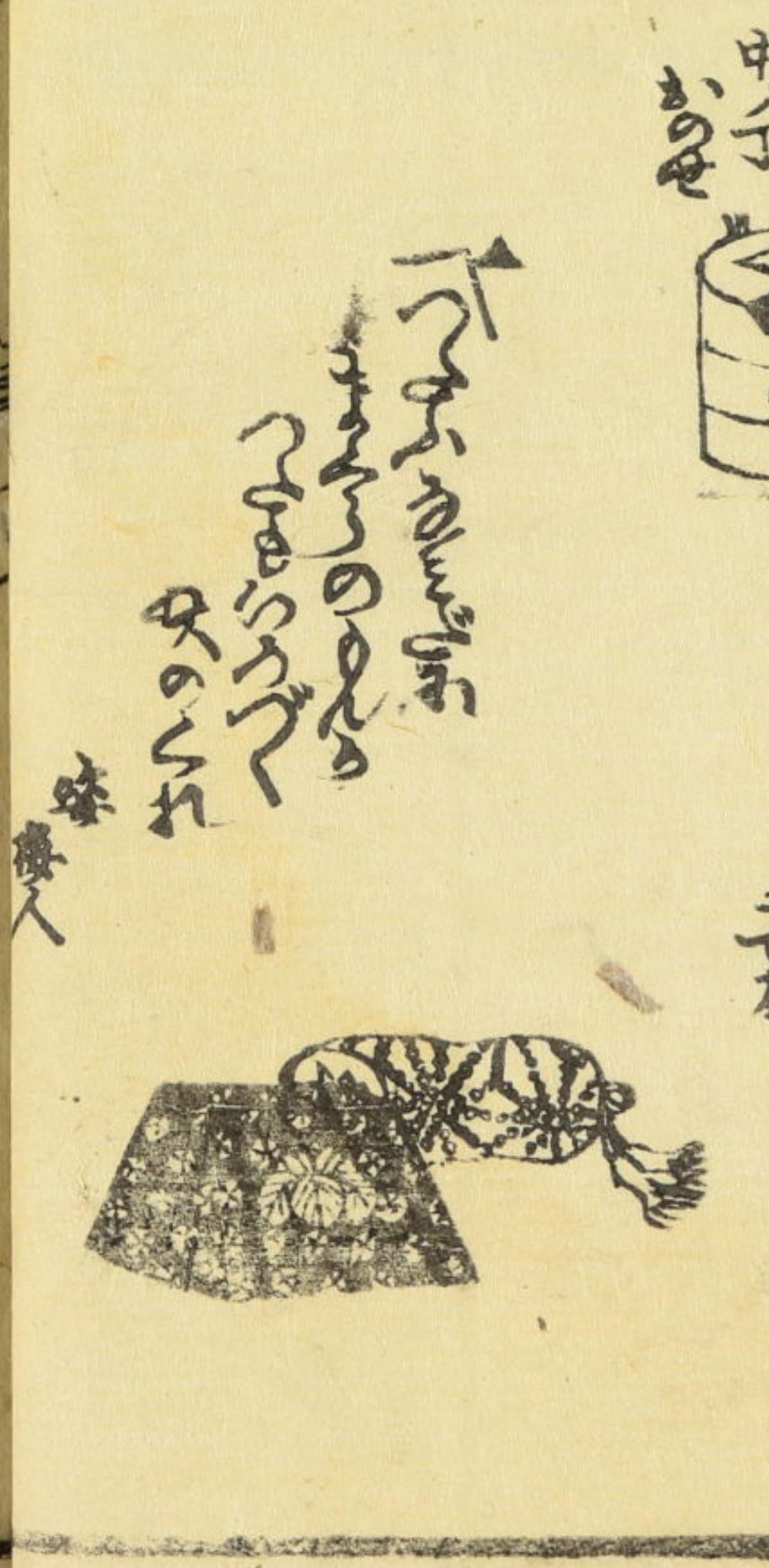


揚谷町魚屋
揚谷町魚屋
揚谷町魚屋
揚谷町魚屋
揚谷町魚屋
揚谷町魚屋
揚谷町魚屋
揚谷町魚屋
揚谷町魚屋
揚谷町魚屋
揚谷町魚屋
揚谷町魚屋



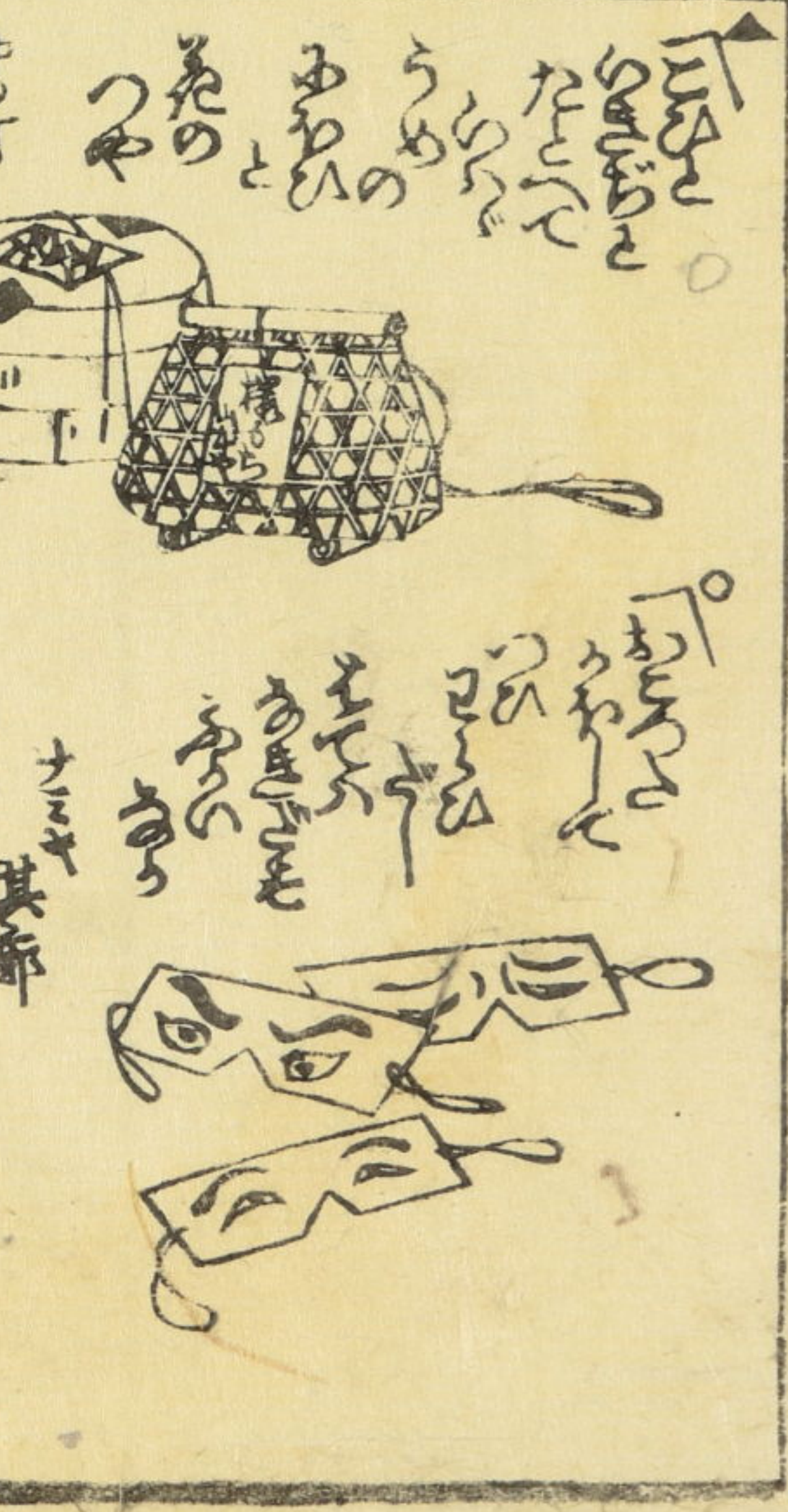
入のくま
入のくま
入のくま
入のくま
入のくま
入のくま
入のくま
入のくま
入のくま
入のくま
入のくま
入のくま

柳橋
柳橋
柳橋
柳橋
柳橋
柳橋
柳橋
柳橋
柳橋
柳橋
柳橋
柳橋



中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁

味入
味入
味入
味入
味入
味入
味入
味入
味入
味入
味入
味入



中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁
中丁

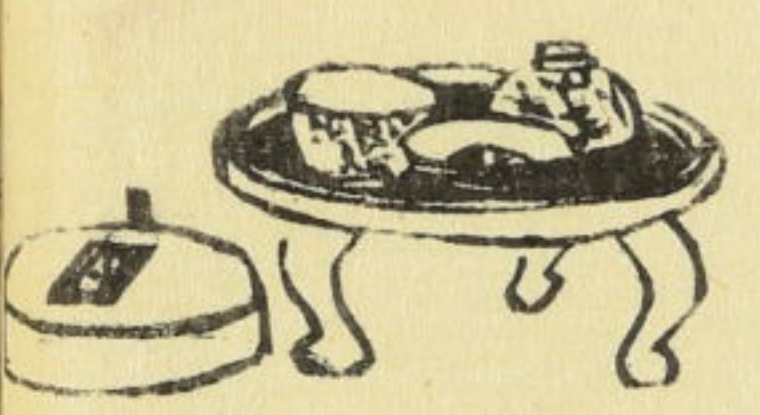
其希
其希
其希
其希
其希
其希
其希
其希
其希
其希
其希
其希

陶器 郷

ついで
わらわ
あふ
うら
この



この
まの
この



か
は
は
は
は
は
は
は
は
は

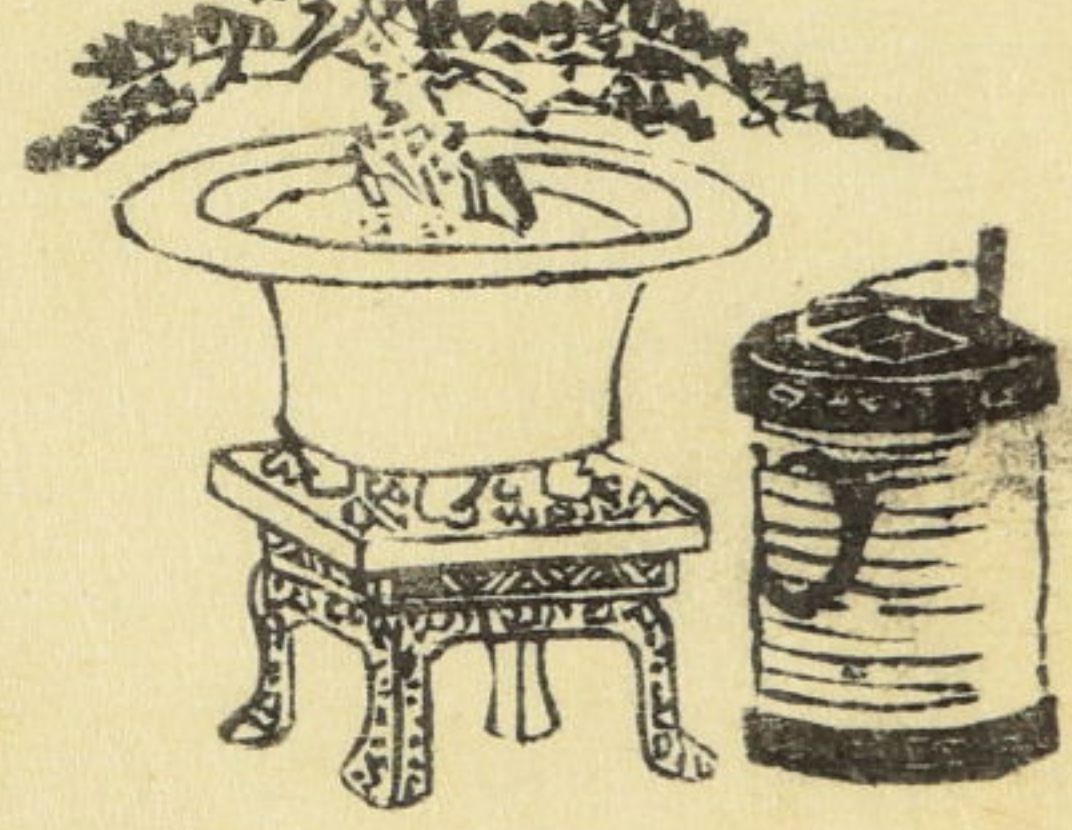


金谷
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ



よ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

仲
う
ち
の
の
の
の
の
の
の



尾張
山花



小
の
の
の
の
の
の
の
の
の

た
た
た
た
た
た
た
た
た
た



か
か
か
か
か
か
か
か
か
か

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ



明勝

西坂



西坂の
洗濯場
の
様子

重石



西坂の
神社
の様子



福山

見附

見附の
様子



小柳川



西坂の
様子



西坂の
様子



西坂の
様子

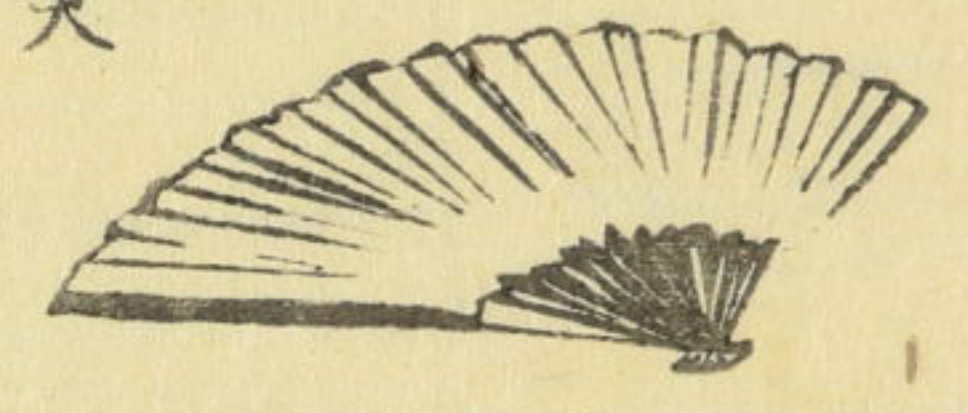


西坂の
様子

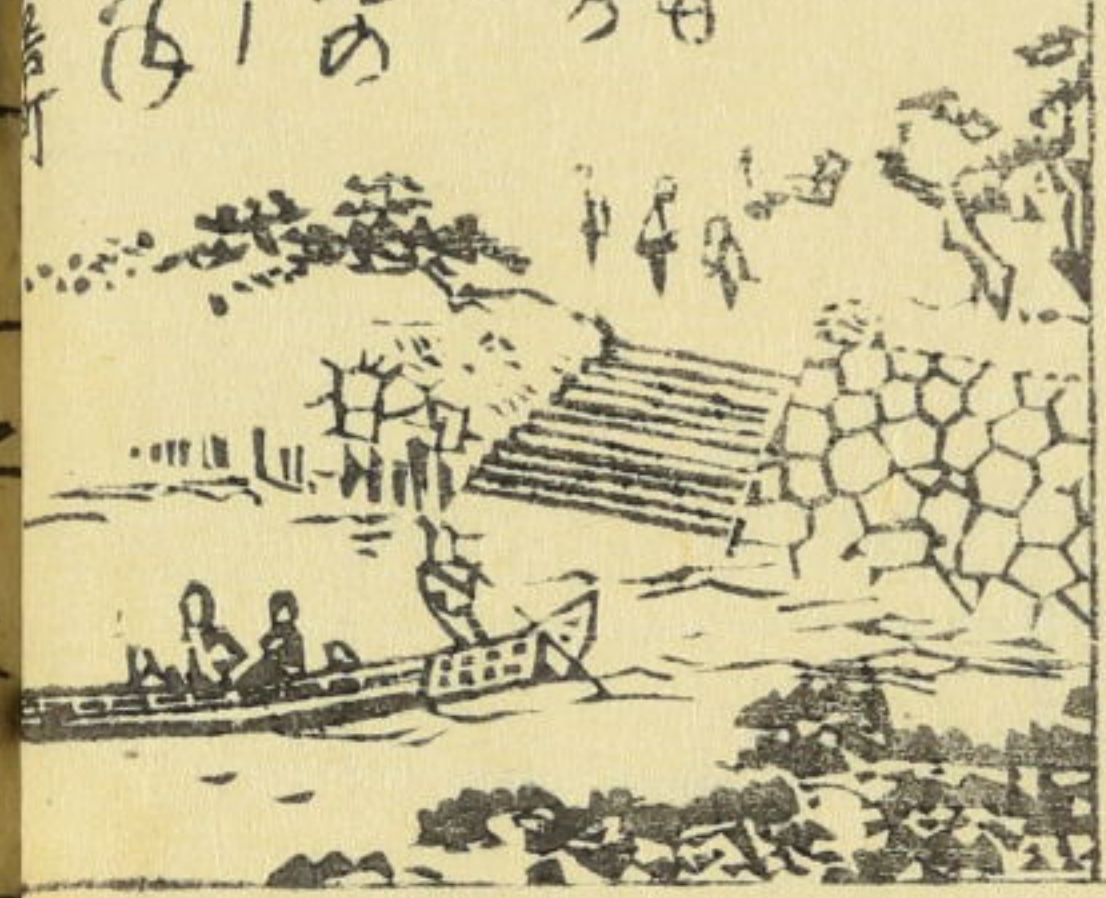
111

111

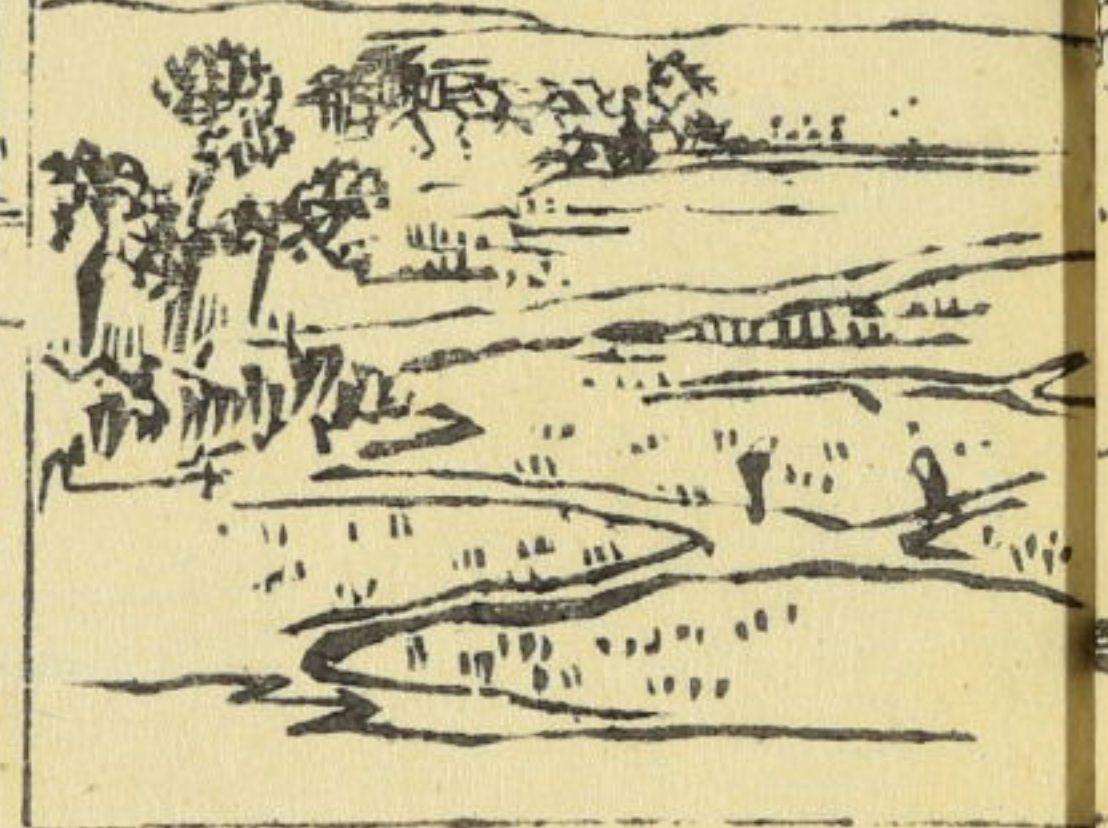
美代松
 赤いよ
 ひらら紙
 竹下
 美代松



名の
 あつたの
 舞波
 てんま
 まつら



山登
 俊栄
 あつたの
 ちの
 ちの
 ちの



根岸
 長次
 あつたの
 ちの
 ちの
 ちの

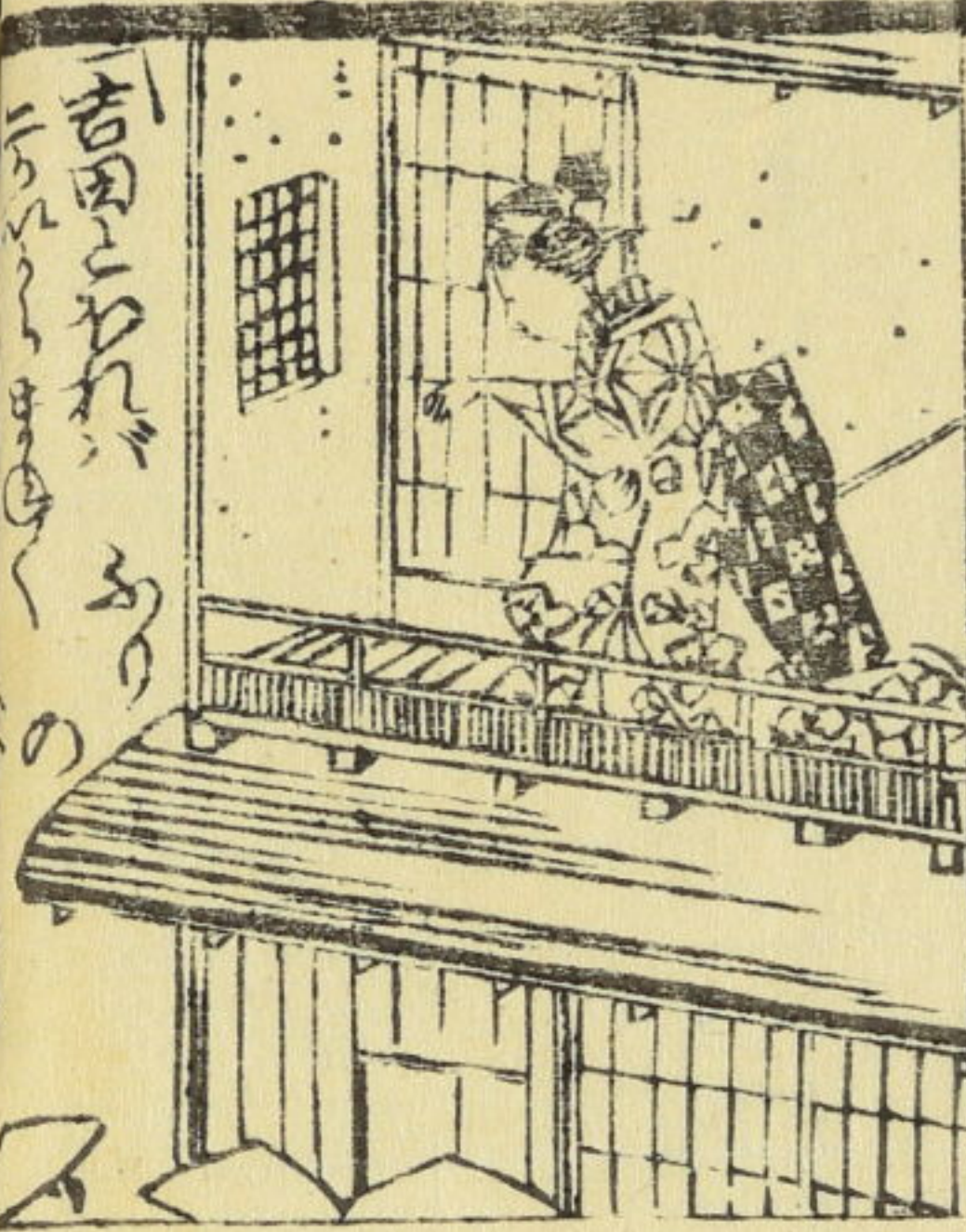




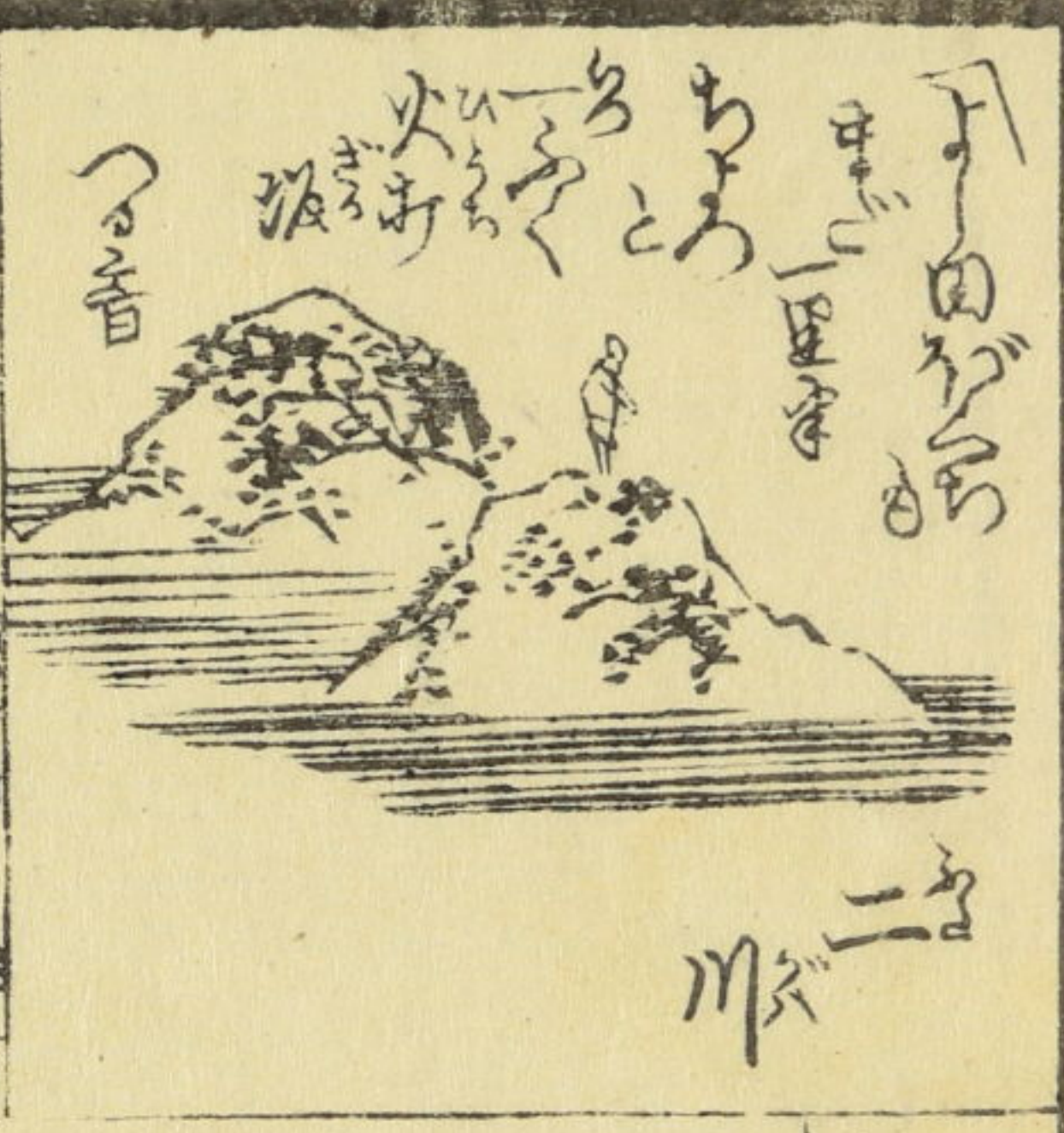
げあひ
 赤坂
 ろるる
 の
 ちよろも
 えんまけい
 ひぢりめん
 扇要



仲角
 吉田とわね
 吉田とわね
 吉田とわね



吉田とわね
 吉田とわね
 吉田とわね



吉田とわね
 吉田とわね
 吉田とわね



福蝶
 菊千
 廣小浴
 福蝶
 福蝶

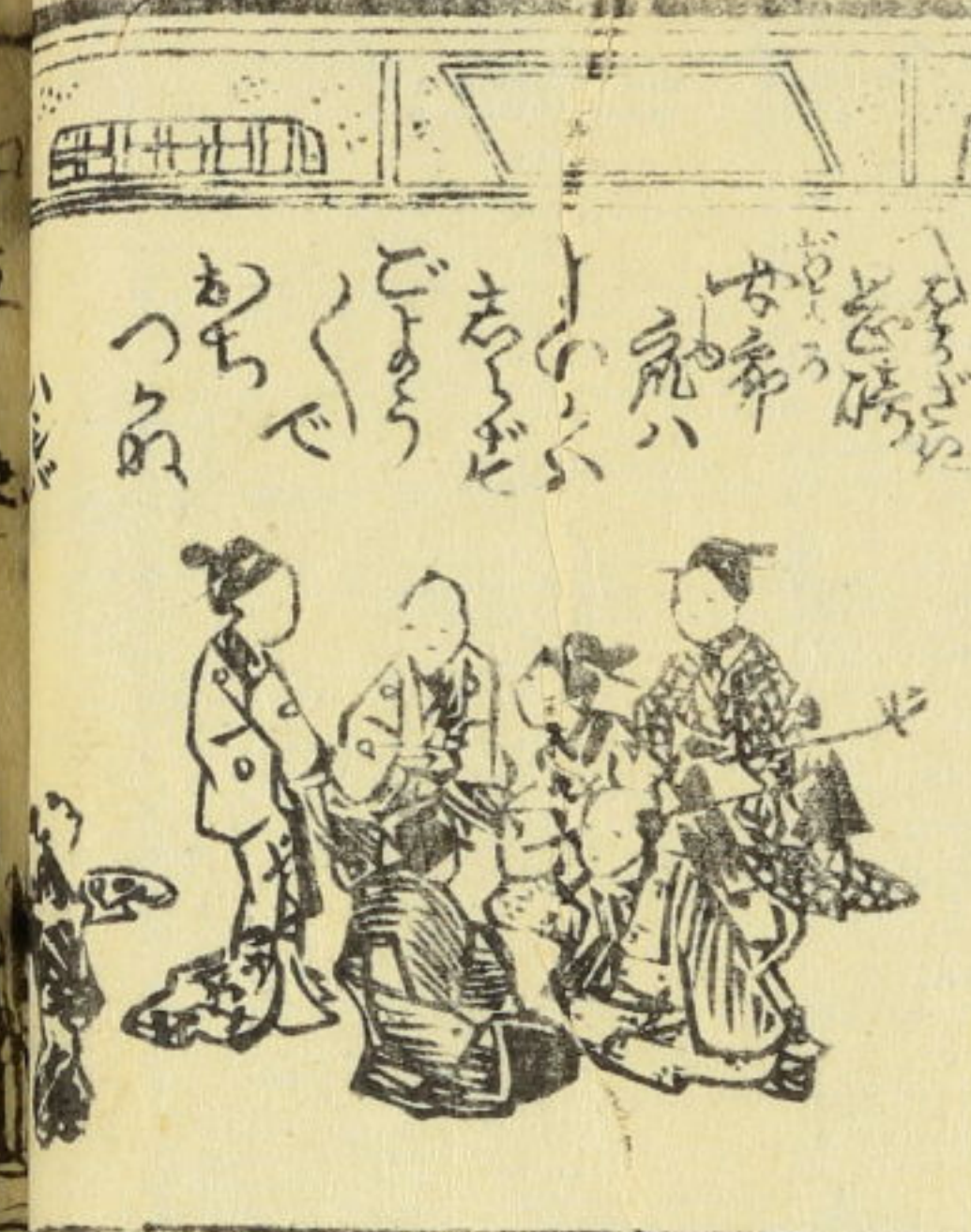


雑歌
 吉田とわね
 吉田とわね
 吉田とわね

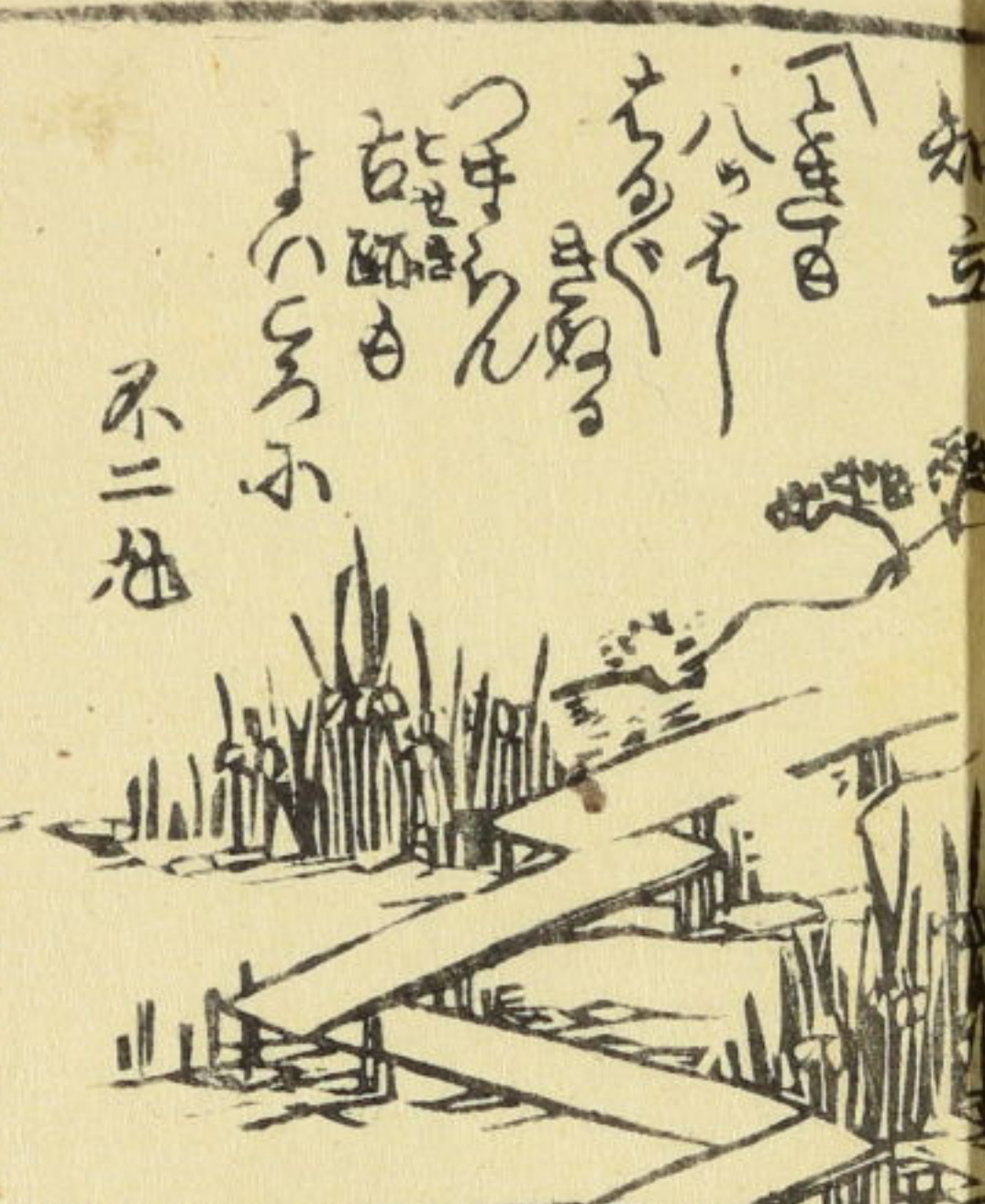


これもおりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの

竹田の大夫



あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの



あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの



あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの

三分亭

あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの



あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの

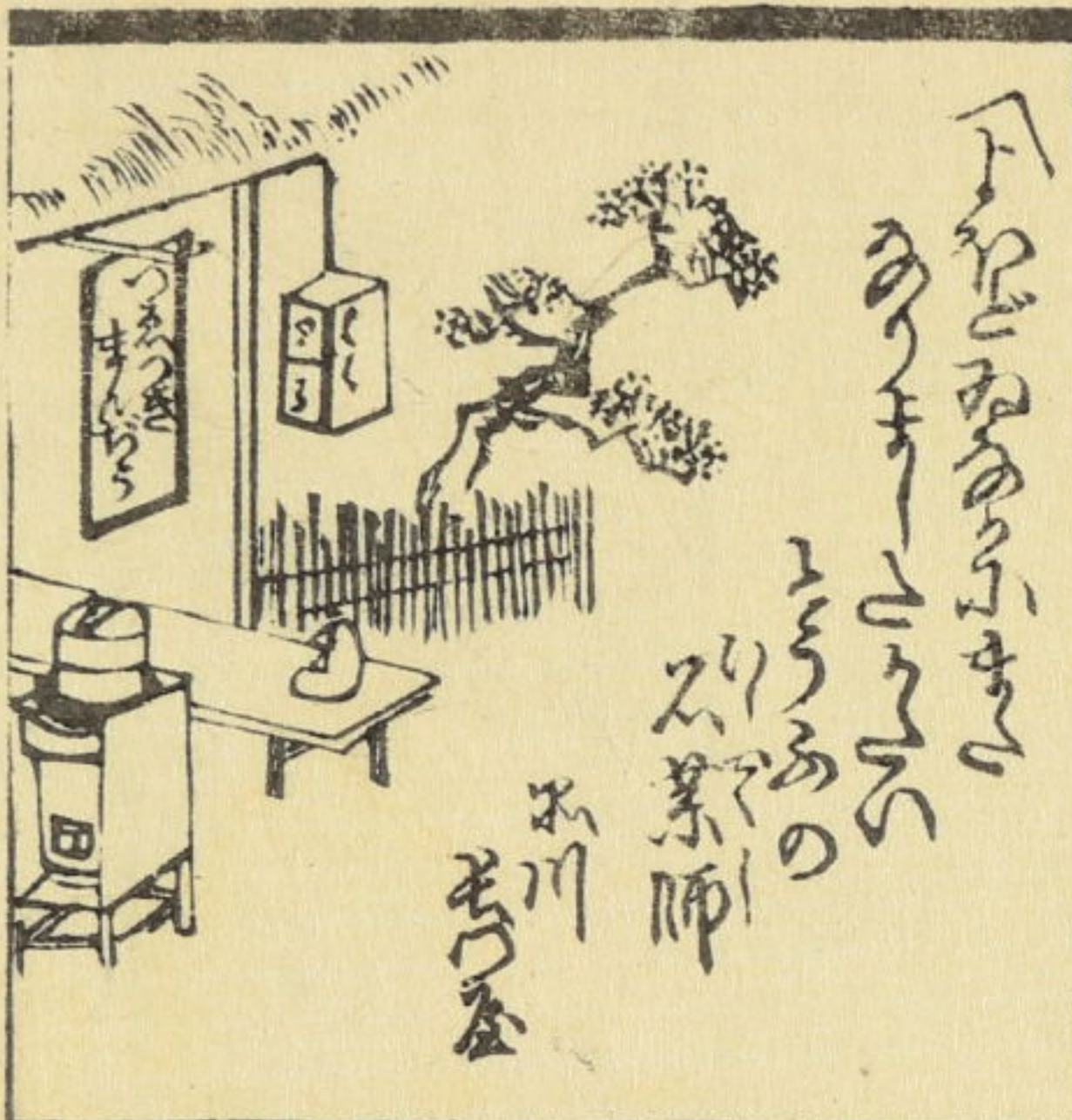
雑体



あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの
あつりの

あつりの

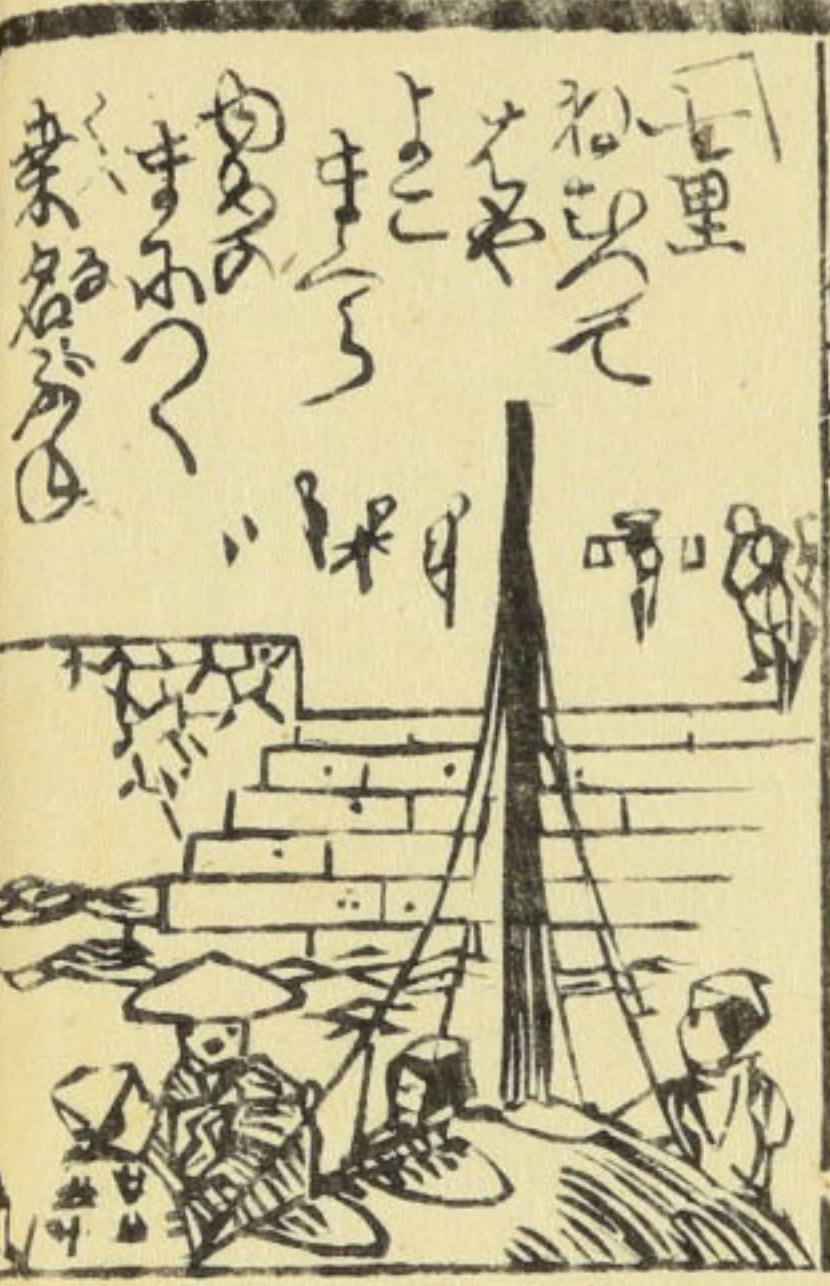
あつりの



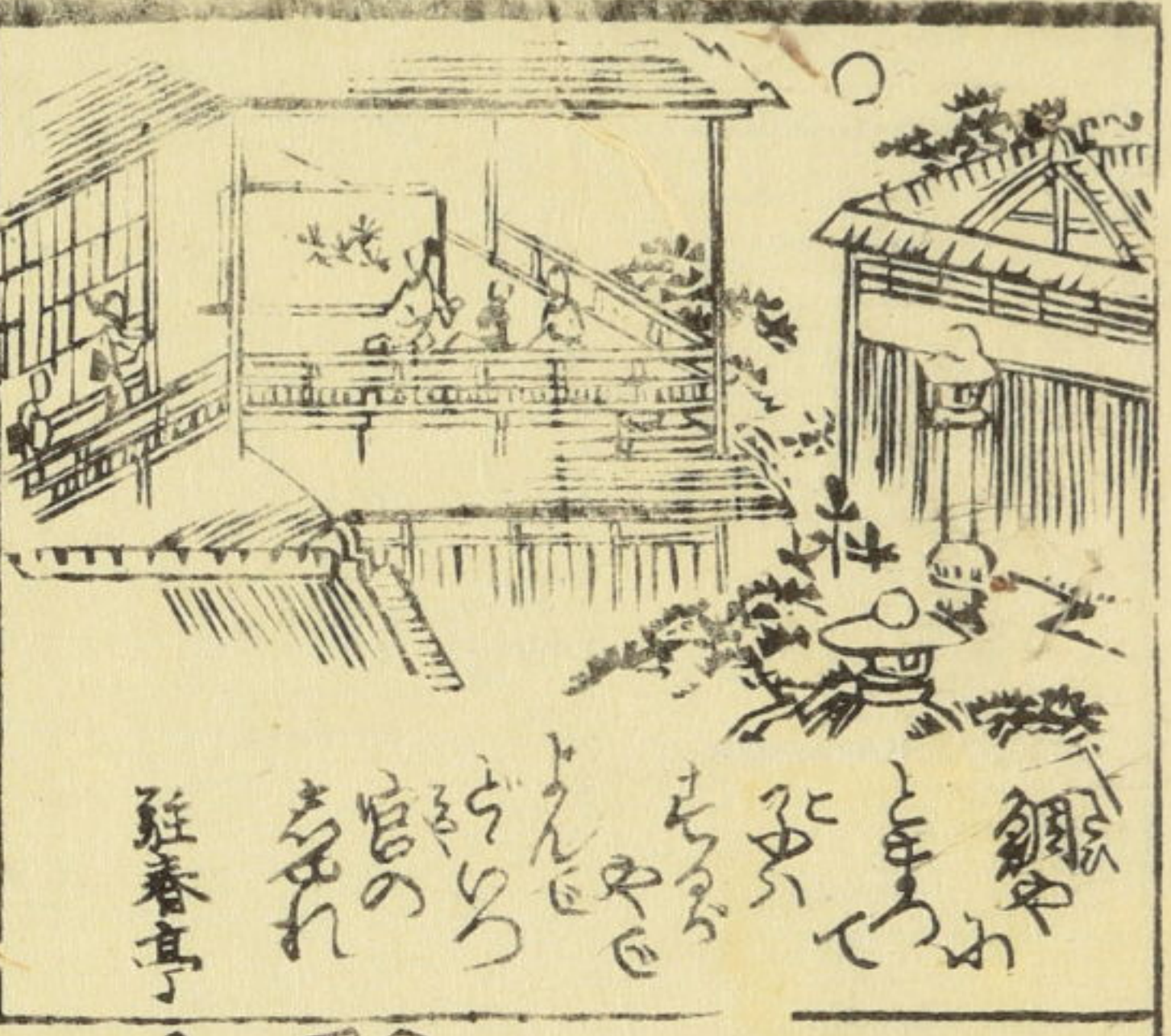
下町とあるから
 あつちとつちの
 しょうあひの
 ぶくろ
 川
 せい
 ぶくろ



市
 ひん
 おま
 ひん
 の
 小玉太夫



七里
 ねん
 大
 よ
 ま
 ま
 ま
 ま
 ま



舞
 と
 む
 び
 け
 ち
 ぢ
 ろ
 官
 の
 ち
 め
 駐
 春
 亭



氏
 仲
 氏
 仲
 氏
 仲
 氏
 仲

氏
 仲
 氏
 仲
 氏
 仲
 氏
 仲
 氏
 仲
 氏
 仲



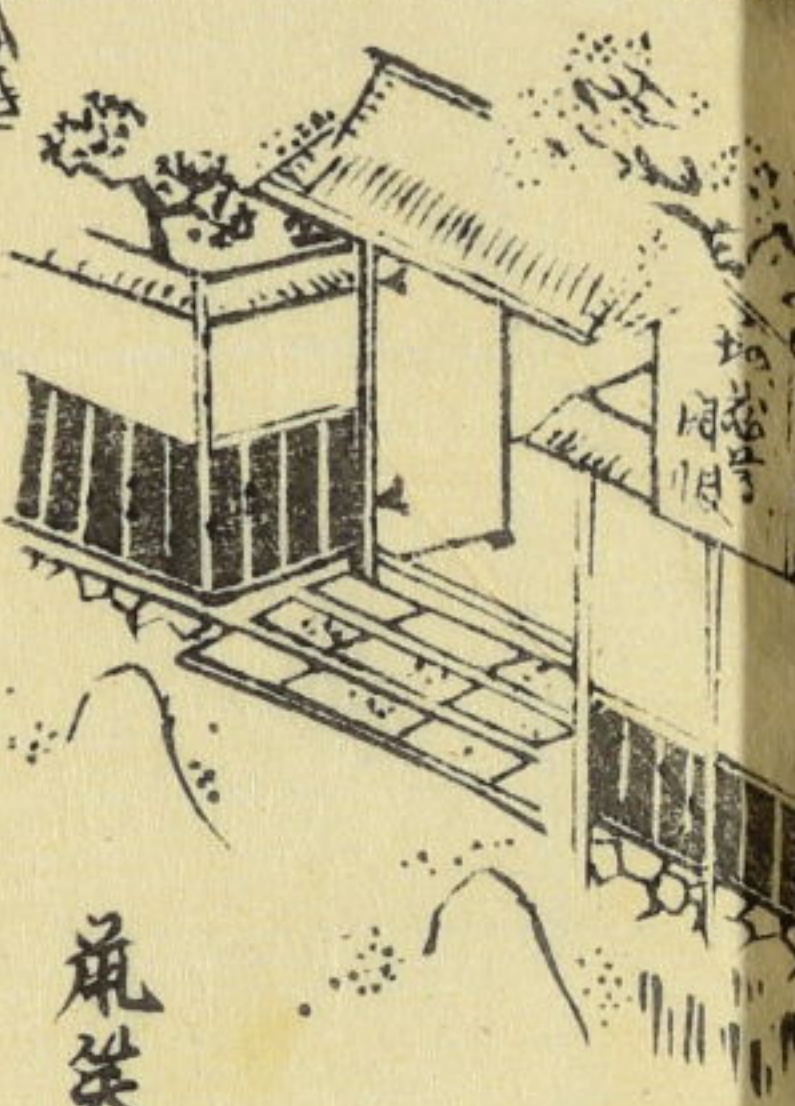
氏
 仲
 氏
 仲
 氏
 仲
 氏
 仲

氏
 仲
 氏
 仲
 氏
 仲
 氏
 仲

氏
 仲
 氏
 仲



夏のはつらうのあぢうあぢうを
上りの せうせうせうせうせうせう
のりのおんせうせうせう
せうせうせうせうせうせう



魚笑



竹堀笑



勝七

女
あぢうをせうせうせうせうせう
せうせうせうせうせうせう
七里

男
せうせうせうせうせうせう
せうせうせうせうせうせう
七里

女
あぢうをせうせうせうせうせう
せうせうせうせうせうせう
七里

男
あぢうをせうせうせうせうせう
せうせうせうせうせうせう
七里

女
あぢうをせうせうせうせうせう
せうせうせうせうせうせう
七里

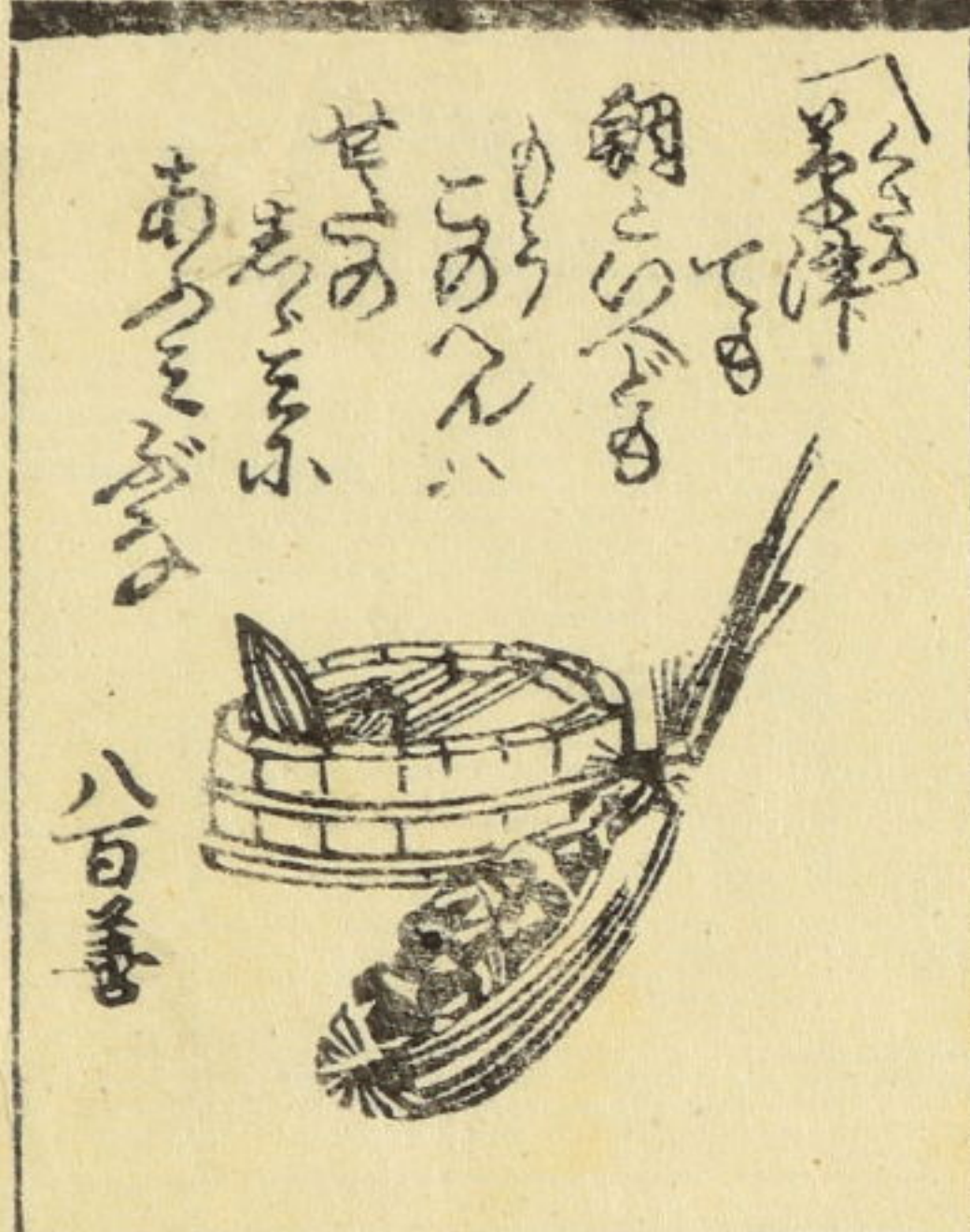
男
あぢうをせうせうせうせうせう
せうせうせうせうせうせう
七里



問
答

七首

十七



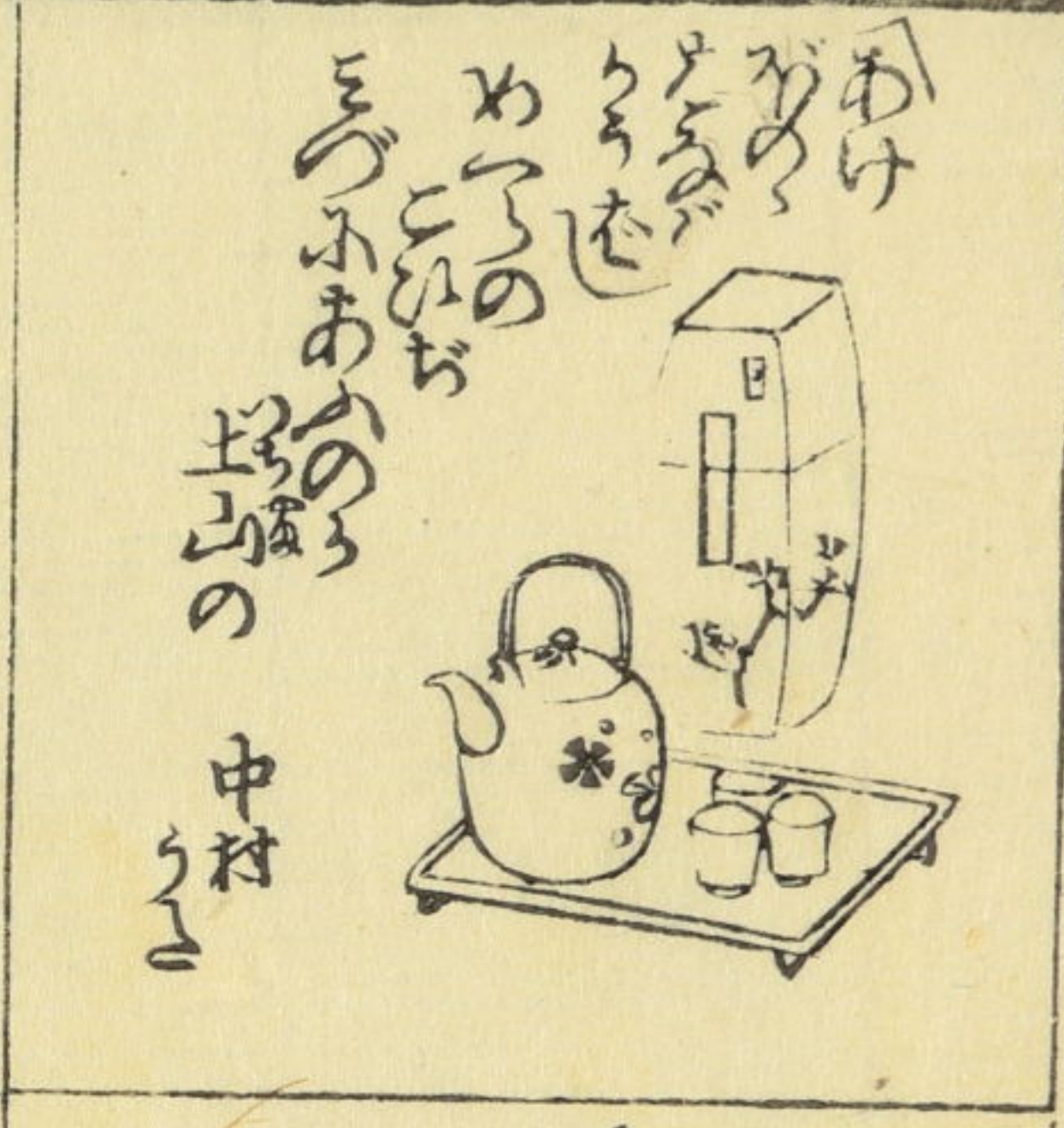
八百巻
あつちぎ
まき
せいの
このへん
朝の
あつちぎ



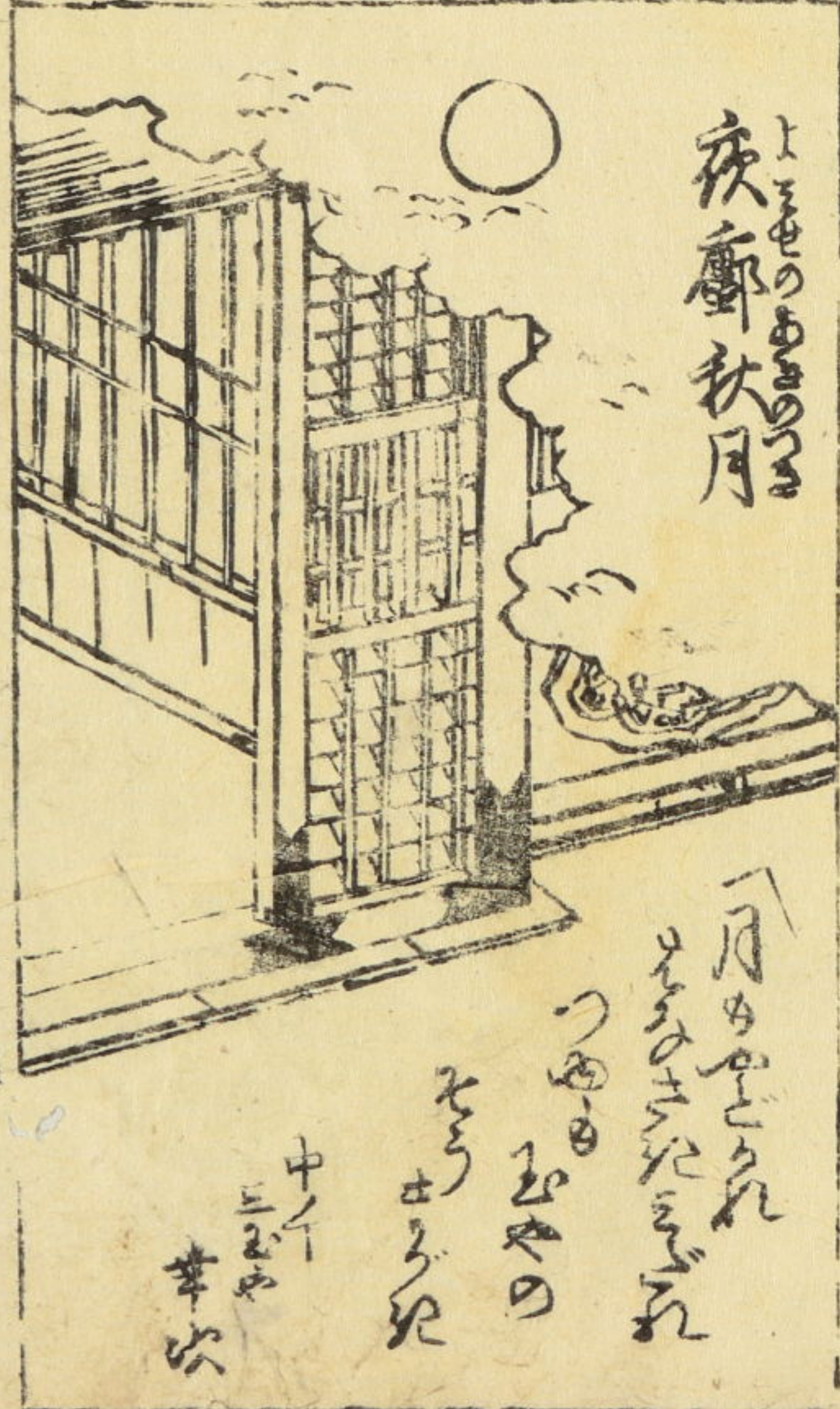
八百巻
あつちぎ
まき
せいの
このへん
朝の
あつちぎ



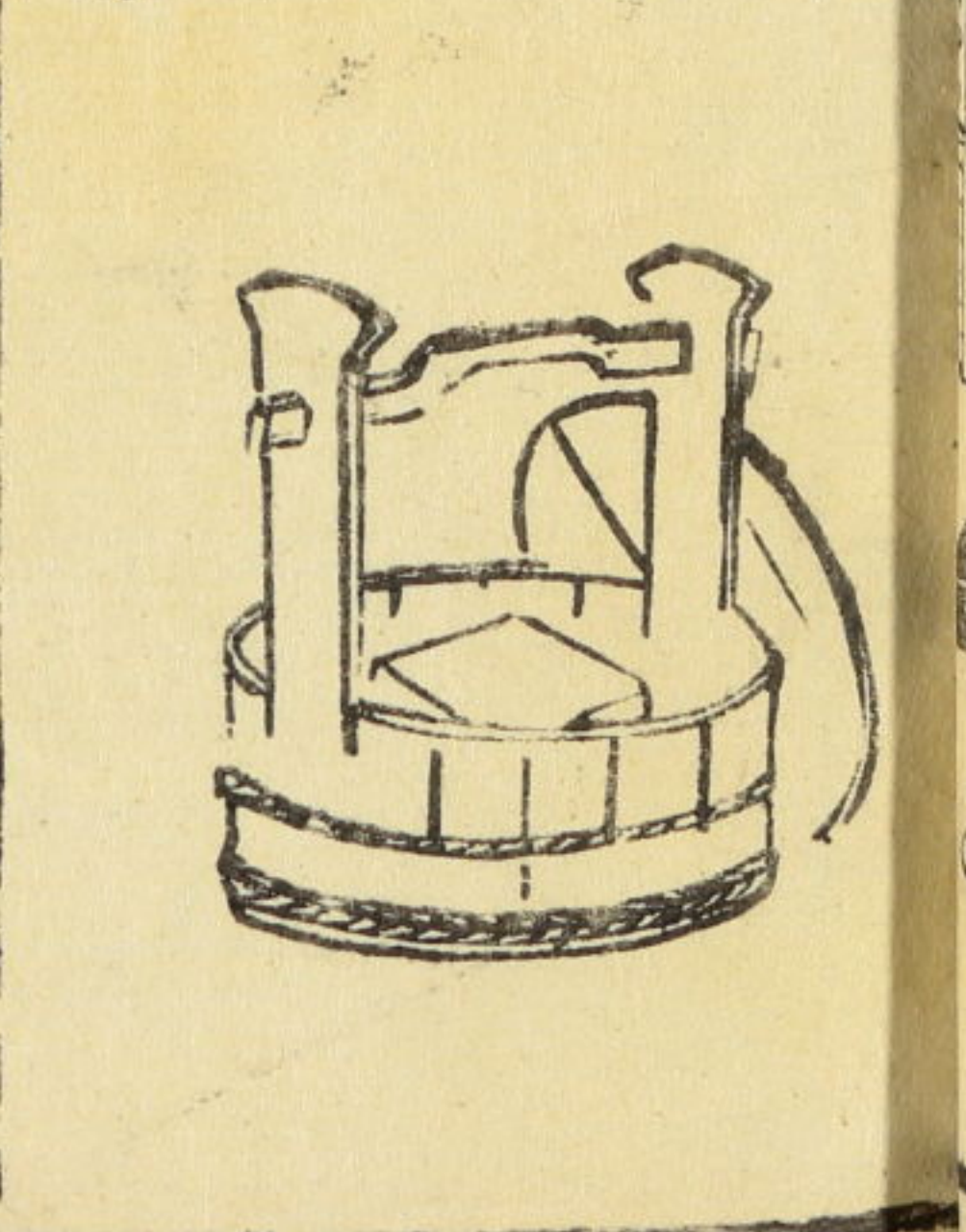
八百巻
あつちぎ
まき
せいの
このへん
朝の
あつちぎ



八百巻
あつちぎ
まき
せいの
このへん
朝の
あつちぎ



八百巻
あつちぎ
まき
せいの
このへん
朝の
あつちぎ



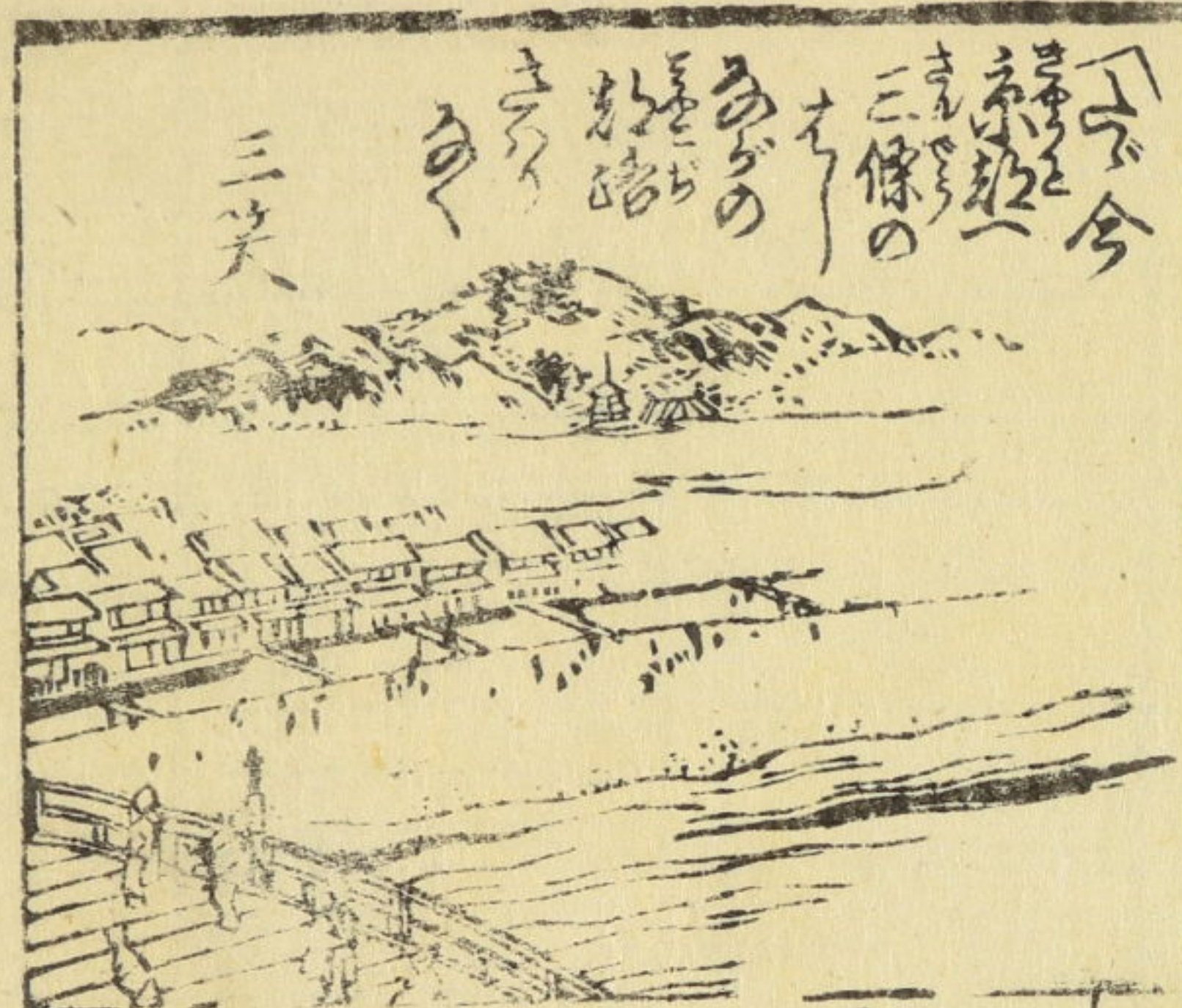
八百巻
あつちぎ
まき
せいの
このへん
朝の
あつちぎ



八百巻
あつちぎ
まき
せいの
このへん
朝の
あつちぎ



八百巻
あつちぎ
まき
せいの
このへん
朝の
あつちぎ



三ノ天

今
三條の
あまの
おとら
さるる

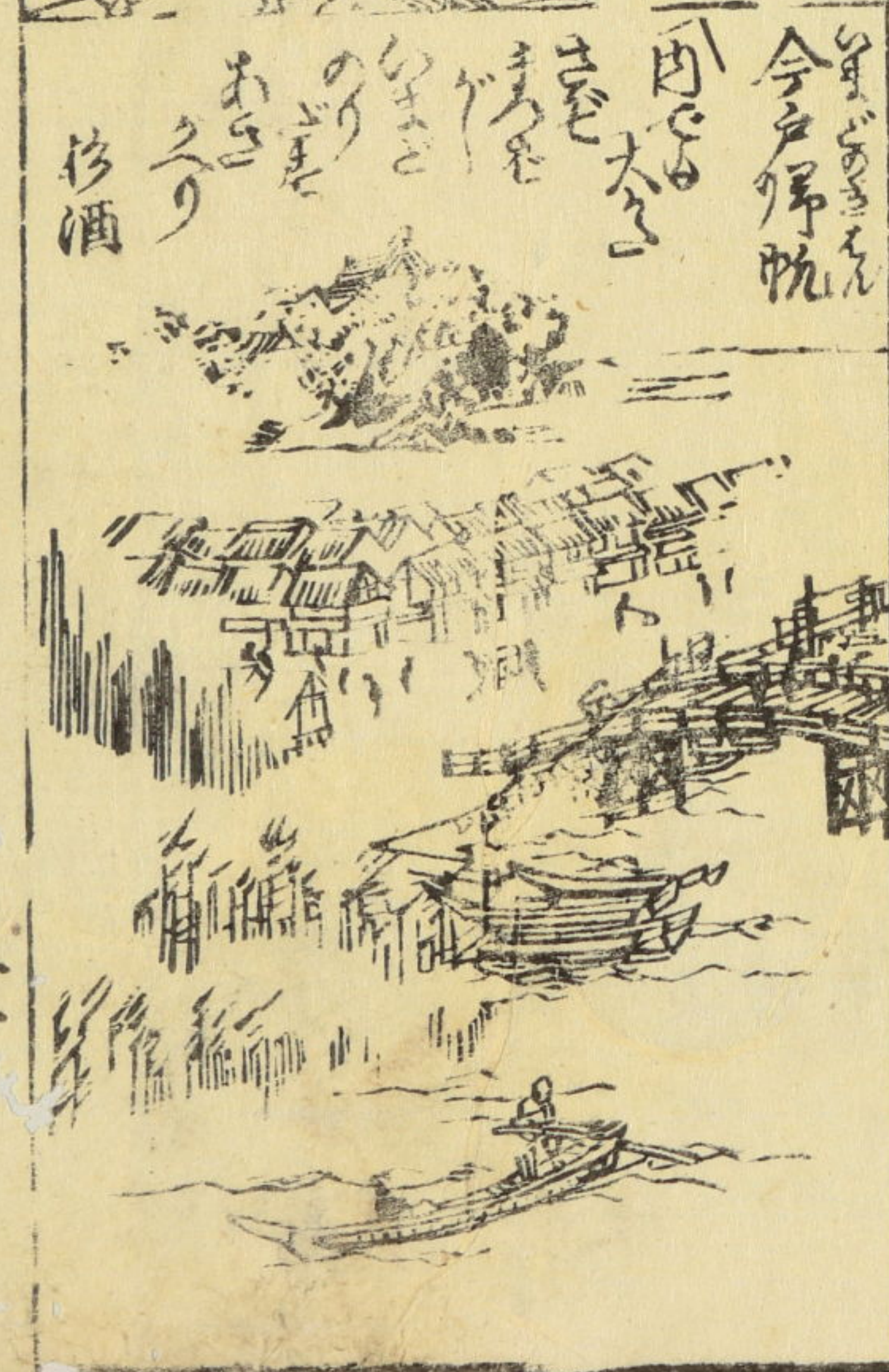
アレサ
大い
油丁
す



大い
あまの
大い

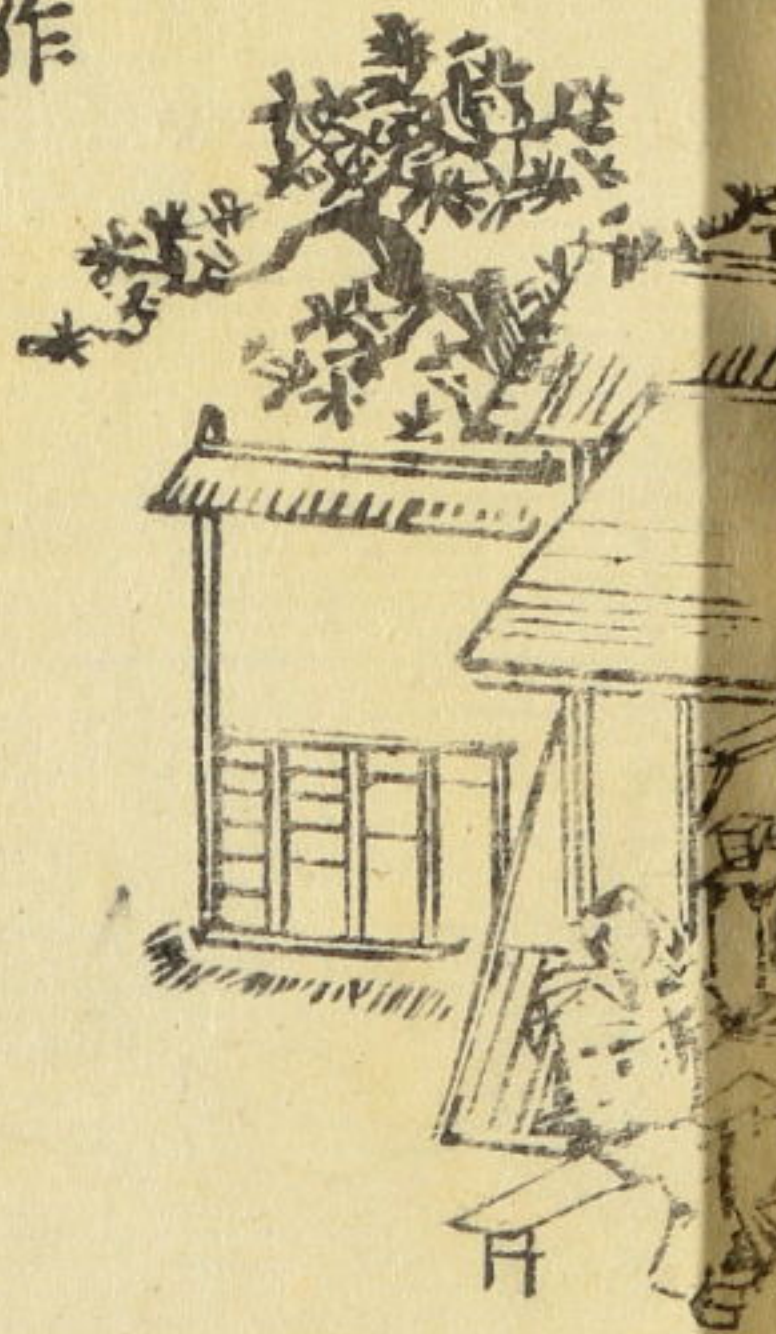


紀伊
あまの

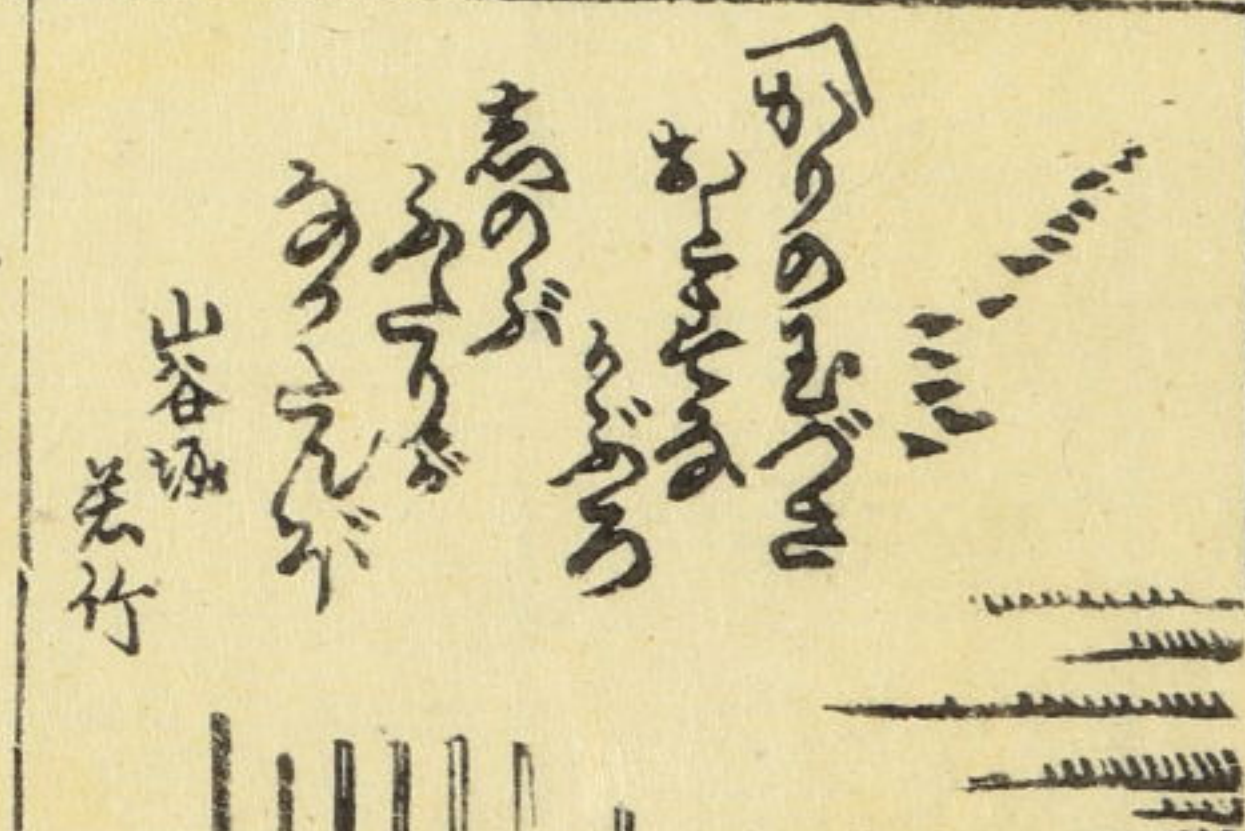


今
大い
あまの
おとら
さるる
杉酒

千代作
あまの
おとら
さるる



あまの
おとら
さるる
あまの
おとら
さるる



田頼
あまの

右の八景八寛保元年 吉原細見 鷺の思ひ相の巻首小出と云ふ此の外
享保九年 百三十三年 能書 露月ヶ並 あり 原八景の幾句あれと云ふ六六不送り
あや外中目入られも今その書名をとりとれりと清聲翁のり

一 女房がからあくる松小のれバ
えんまをわねぬで
山谷城
八文字屋



ト、イッといふ小唄江戸で唱初 六徳四五十年の往昔あり 其の
あゝがら流行るとおもいらふぞ 芝居小同様の小唄とて曲節も趣も異なり
してヨシコノ節といふも二十餘年餘をわたりつゝふせおもてをて 縮
ぬ人あり 一澳の暗のふ白帆がっるあわれハ 紀伊國密柑船。チヨウチヨ
静ふさうとありヤ又ヨシコノ。あどうこひをゆけし 其を一盛のりて復
ゆこのドイッ節ぞ 一統て行くと當時の墨譜とハ 漸小変ぬれども 年を
経て廢るぞ 流行ともあり 平常小ありて 此一小令を欠く 別ハ 極小
香のあきゆく 假令花巻でも 蕎麥を喰小 藥味を添ぬあきありて
酒を喫むとも 座六 浮きま。或ハ二上り三下り 字餘りあるんを 調子ハ
ゆくりあり。唱歌も 思へ小新し。垣の華花 改て夜肆の早鮮
好み郎君ハ 自己作りまづ 唱ひ心利する 歌唄ハ 歌座の續結句
心意気 其人情を極小 至てハ 歌の老父や 番頭の眼小 涙を流さる 母
の刀。さぞハ 小猛き 武士も 心を慰め 投打する 夫婦及目の 絶交丸く 和睦



いりてらんかん
 いりてらんかん
 いりてらんかん
 いりてらんかん
 いりてらんかん
 いりてらんかん
 いりてらんかん
 いりてらんかん
 いりてらんかん
 いりてらんかん
 いりてらんかん

甲の二二二二二
 甲の二二二二二
 甲の二二二二二
 甲の二二二二二
 甲の二二二二二
 甲の二二二二二
 甲の二二二二二
 甲の二二二二二
 甲の二二二二二
 甲の二二二二二
 甲の二二二二二

二百年の
 りを
 りを
 りを
 りを
 りを
 りを
 りを
 りを
 りを
 りを



これい某尼の手
 かける本
 今古園の織
 あらたま
 乙の
 甲の
 乙の
 甲の

そはは款之此款根えハ知らざれども古く尾張の厚田の傀儡ドイといふ
編る乱の中ハドイドイドイ。浮世ハサクくと折返一難し事を費
推き小耳小挾て忘るるも今ハ絶て更ふいふぞ然ども唱歌ハ今昔部も
都も一斉くして東都も古来人の知る。ハ宮の厚田の明神さん（遠き
うま丁六のゆせぬ。厚田小古く款ハハハは款既小一の誰故今猶宮沢
小款ハ所喜嬌園とい似て非あれども其えする予聴けハ知れぬ或人の
説小ドイハ婀娜小もうそを品よくも唄るる百度云より一唄もて
思ひを述べ小唄も百の一ありと一時の戲筆唯ドイハ難詞もて
何のふや知らる抑ら小輯するハ癡情小通ド世小洒落する人達
の新作もて又漫口も多けれハ荒味あるも少くねと色を香を
汁次の香油の上の小茶味の薫梅小鶯声清く是を酒宴小款ハ
あバ達摩も拂子を投節の絶る後ハドイ計あざ小唄ハあさる

